PENTAX®

Z-5 QUARTZ DATE

使用説明書

このたびはペンタックスカメラをお買い上げいただき誠にありがとうございます。Z－5は、ハイパープログラム自動露出からのワンタッチでのシャッター優先、絞り優先への切り替えとハイパープログラムへの復帰など自由に撮影者の意図を割り込ませることができるカメラです。
さらに、専用のパワーズームレンズとの組み合わせによるオート露光間ズームや焦点距離の設定など高精度なインテリジェントパワーズームも備えたオートフォーカス一眼レフカメラです。
その他、以下のような特徴を備えています。

・動体予測
・９回までの多重露出
・８分割測光を含め、２つの測光モードを自由に選択可能。

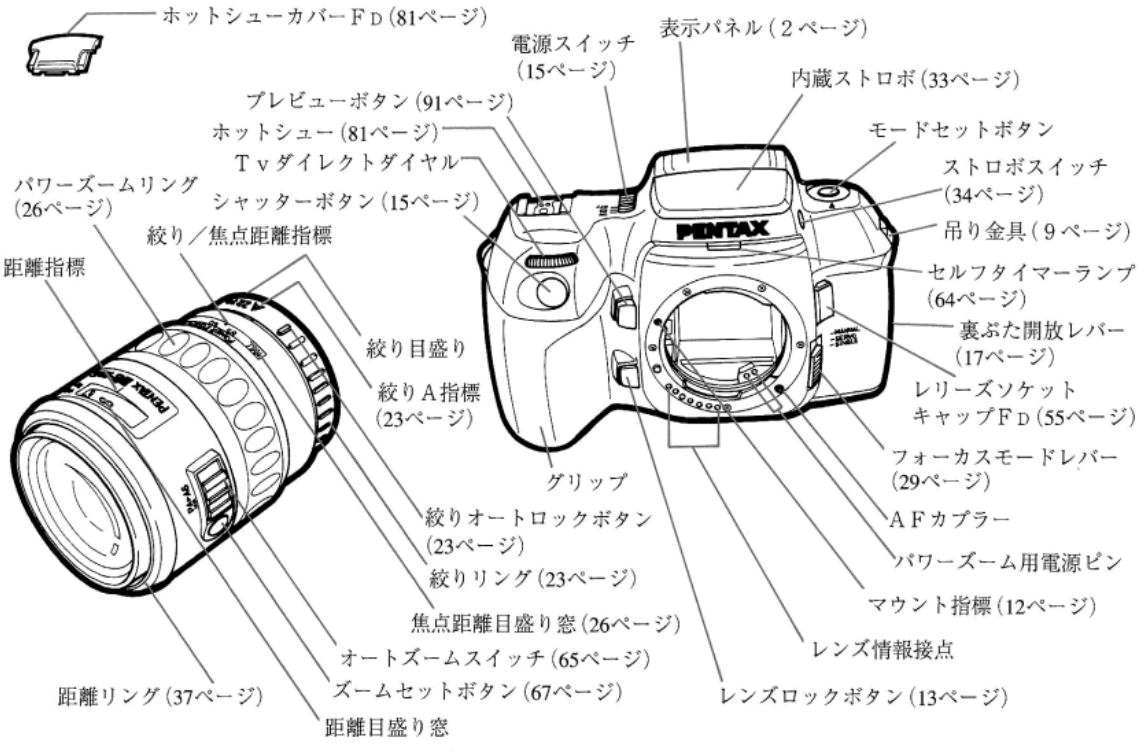
ご使用前に使用説明書の関係部分をよくお読みのうえ正しくお使いください。
各部の名称は表紙と裏表紙の内側にありますので、開いて各ページを読みながらご覧いただくこともできます。

記号について

操作の方向	⬅
自動的に動きます	⬅▬▬➡
注目してください	◌
点滅します	✳
正しい	○
間違い	×

各部の名称を開いて見ながらお使いください。

各部の名称①



こんな写真を撮るには？

ピント関係

画面の中央にない物にピントを合わせたい ……32
ピントの合う範囲を変えて写真を撮りたい ……52
カメラを覗いて、ピントの合う範囲を確認したい ……91

ストロボ関係

暗いところで写真を撮りたい ……33
逆光の人物の顔を明るく写したい ……74
夜景をバックに人物を撮影したい ……75
結婚式など広い室内で写真を撮りたい ……81

ズーミング関係

写したい物の大きさを大きくしたり小さくしたりしたい …25
自分が決めた焦点距離で常に撮影をしたい ……66
シャッターが開いている間にズーミングをして
特殊な効果を出したい ……68

露出［明るさ］関係

カメラ任せでなく明るさを自由に変えて写真を撮りたい ……48,56
逆光の人物の顔を明るく写したい ……56,74
明るさを変えた写真を3枚連続して撮りたい ……58

人物撮影関係

逆光の人物の顔を明るく写したい ……56,74
自分自身も写真に写りたい ……63
夜景をバックに人物を撮影したい ……75

風景撮影関係

夜景を撮りたい ……54
夜景をバックに人物を撮影したい ……75

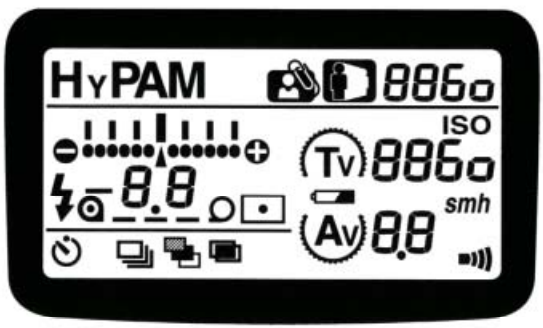
その他

写真に日付を入れたい［消したい］ ……16
動きのあるものを連続的に撮影したい ……58
フィルムの同じ枚数の部分に重ねて撮影をしたい ……61

目次

表示パネルの表示ガイド ……2
・表示パネルの照明について ……2
ファインダー内の表示ガイド ……3
使い方は簡単です ……4
マウントについて ……6
Z－5と各種レンズを組み合わせたときの機能 ……7
説明書の構成について ……8
カメラの準備と基本操作 ……9～21
ストラップを取り付けます ……9
電池を入れます ……10
レンズを取り付けます ……12
ファインダーの視度を調節します ……14
シャッターボタンの操作 ……15
電源スイッチの操作 ……15
データバックを使います ……16
フィルムを入れます ……17
フィルムの巻き戻しについて ……20
基本的な使い方(撮影) ……22～35
最も簡単な露出モードを使います ……22
ズームレンズの使い方 ……25
カメラの構え方 ……28
オートフォーカスで使います ……29
オートフォーカスでピントを合わせます ……30
・フォーカスロック撮影について ……32
撮影します ……33
内蔵ストロボの基本的な使い方 ……33
応用的な使い方 ……36～92
手動によるピント合わせ ……36
オートフォーカスの苦手な被写体 ……39
測光モードの切り替えについて ……41
・8分割測光について ……42
・スポット測光について ……43
・メモリーロックについて ……44
各露出モードを選びます ……45
・ハイパープログラム自動露出の使い方 ……46
・ハイパーマニュアル露出の使い方 ……48
・絞り優先自動露出の使い方 ……52
・バルブの使い方 ……54
露出補正について ……56
ドライブモードを選びます ……57
・連続撮影の使い方 ……58
・オートブラケッティング撮影 ……58
・多重露出撮影の使い方 ……61
・セルフタイマー撮影の使い方 ……63
パワーズームの拡張機能 ……65
・ズームクリップモードの使い方 ……66
・露光間ズームモードの使い方 ……68
内蔵ストロボを使います ……71
・日中シンクロについて ……74
・低速シンクロについて ……75
・ＡＦスポットビームについて ……76
電子音を消すには ……77
クォーツデートのデータ修正 ……78
フィルム感度(ＩＳＯ)のマニュアル設定 ……80
外付けストロボの使い方 ……81
・光量比制御シンクロ撮影 ……84
専用アクセサリー(別売)について ……85
ソフトケースＦＤ ……88
絞りとシャッター速度の効果 ……89
被写界深度 ……91
・プレビューボタンについて ……91
赤外線指標について ……92
その他について ……93～103
電池について ……93
取り扱い上の注意 ……94
こんなときは？ ……96
主な仕様 ……98
お問い合わせは次の各サービス窓口へ ……100
各部の名称 ……102
アフターサービスについて ……103

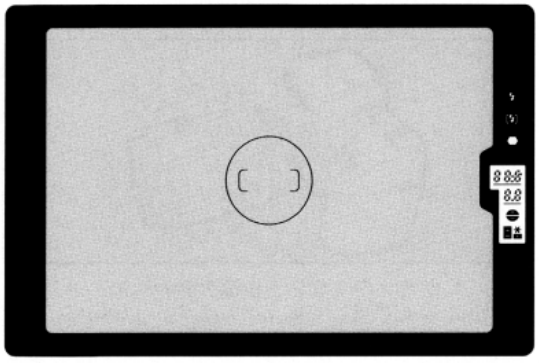
表示パネルの表示ガイド



HYP	：ハイパープログラム自動露出表示(46ページ)
P	：プログラム自動露出表示(23ページ)
A Av	：絞り優先自動露出表示(52ページ)
	：バーグラフ(56、59ページ)
ISO	：フィルム感度表示(ＩＳＯ)(80ページ)
Tv	：Ｔｖダイレクトダイヤル表示
HYM	：ハイパーマニュアル露出表示(48ページ)
	：ズームクリップモード表示(66ページ)
	：露光間ズームモード表示(68ページ)
8000	：シャッター速度表示
smh	：バルブ露出時間表示
32	：絞り表示
	：スポット測光表示(41ページ)
	：セルフタイマー表示(63ページ)
Av	：Ａｖダイレクトダイヤル表示
	：電子音有効表示(77ページ)
	：電池消耗表示(11ページ)
	：ストロボ情報表示(33ページ)
-8.8	：フィルム枚数、多重露出回数表示(19、62ページ) 露出補正値表示(56ページ) ブラケッティング補正値表示(58ページ)
	：フィルム状態表示(19ページ)
	：１コマ撮影表示(57ページ)
	：連続撮影表示(58ページ)
	：ブラケッティング表示(58ページ)
	：多重露出表示(61ページ)

表示パネルの照明について
露出補正ボタン ± と測光モード切り替えボタン ⊡ を同時に押すと、表示パネルを約10秒間照明することができます。

ファインダー内の表示ガイド

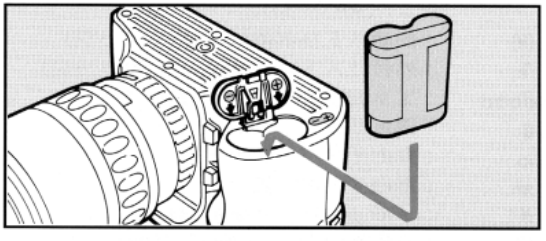


〔 〕　：オートフォーカスフレーム（ＡＦフレーム）（30ページ）
　　：内蔵ストロボ情報表示（34ページ）
　　：外付けストロボ情報表示（81ページ）
8000　：Ｔｖ表示（シャッター速度情報）
　　：露出補正表示（56ページ）
　　：露出オーバー表示
　　：露出アンダー表示
　　：メモリーロック表示（44ページ）
　　：合焦表示（ピント情報）（30ページ）
32　：Ａｖ表示（絞り情報）
　　：スポット測光表示（41ページ）

※ オートフォーカスフレームの回りの円は、スポット測光の範囲です。

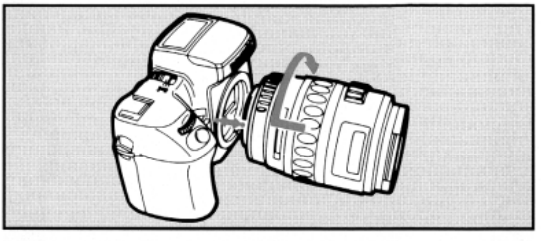
使い方は簡単です！（とにかく撮影してみたい人のために）

1）電池を入れてください



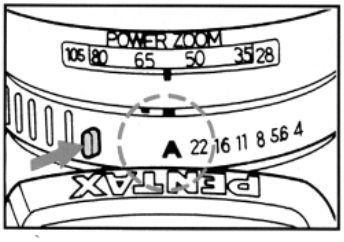
電池ぶたを開いて、リチウム電池 2 CR 5 １本をカメラの表示に合わせて入れます。（10ページ）

2）レンズを取り付けてください



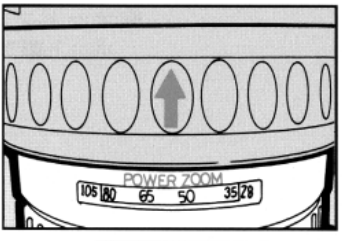
レンズとカメラのマウント指標を合わせてハメ込み、右に止まるまで回してロックします。（12ページ）

3）絞りをＡ位置にしてください



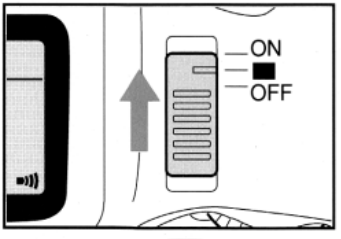
レンズの絞りオートロックボタンを押しながらリングを回し、絞りをＡ位置に合わせます。（23ページ）

4）パワーズームにしてください



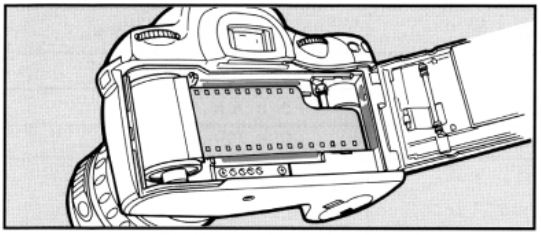
レンズの POWER ZOOM が見える状態にし、オートズームスイッチを P にします（26ページ）。パワーズームはＦＡズームでのみ可能です。

5）グリーンポジションにします



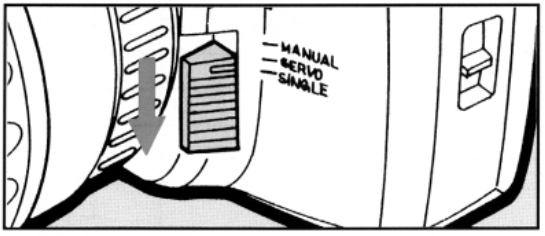
電源スイッチを ■（グリーンポジション）に合わせます。（15ページ）

6) フィルムを入れてください



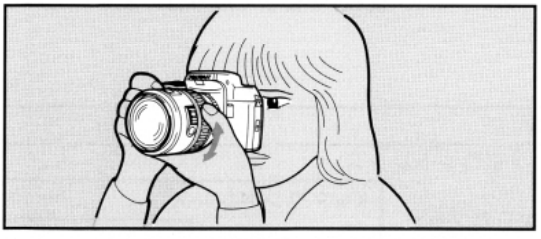
カメラの裏ぶたを開けてフィルムを入れ、先端マークを合わせて裏ぶたを閉めます。自動的に1コマ目まで巻き上がります。(17ページ)

7) オートフォーカスにしてください



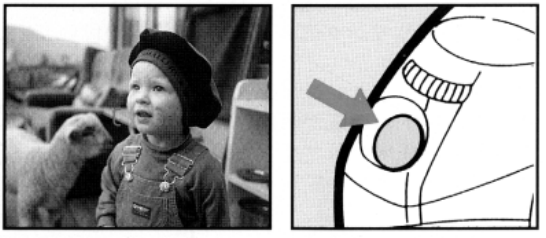
フォーカスモードレバーを[SINGLE]に合わせます。(29ページ)

8) パワーズームで構図を決めてください



ファインダーを覗きながらズームリングを回して、写したいものを好みの大きさにしてください。(25ページ)

9) ピントを合わせて撮影してください



写したいもの(被写体)をAFフレーム[ ]に合わせて、シャッターボタンを静かに押して撮影します。(30ページ)

マウントについて

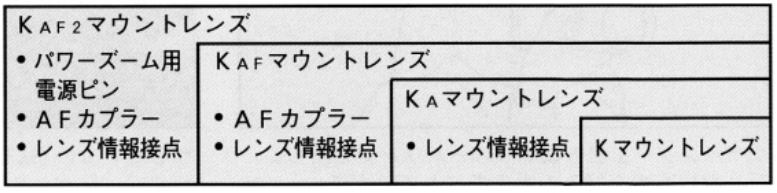
カメラ・レンズのマウントについて

マウントの分類名称	レンズ分類名称	カメラ代表機種名
❶KAF2マウント	ペンタックスFAレンズ	Z-5、Z-1、Z-20p、Z-50p、Z-10
❷KAFマウント	ペンタックスFレンズ	SFXN、SF7
❸KAマウント	ペンタックスAレンズ	スーパーA、P30T
❹Kマウント	ペンタックスMレンズ およびペンタックスレンズ	LX、K1000
❺スクリューマウント	SMCタクマーレンズなど	ESII、SP

❶～❹のレンズはKマウント(バヨネット式)です。
❶～❷はオートフォーカス対応レンズです。
❸～❺はマニュアルフォーカスレンズです。
❺は旧タイプのねじ込み式レンズですから、マウントアダプターK(別売)を使って取り付けます。
❶～❸は絞りリングにA(オート)位置が付いています。

ペンタックスFAレンズはKマウントに以下の機能が追加されたもので、従来のKマウントカメラにも使えるようになっています。
・パワーズーム用電源ピン
・AFカプラー
・レンズ情報接点

Kマウント互換イメージ図



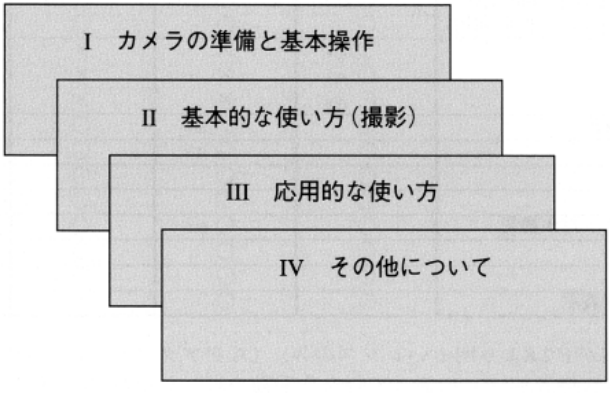
Z－5と各種レンズを組み合わせたときの機能

機能 ＼ レンズ［マウント名］	FAレンズ［KAF2］	Fレンズ［KAF］	Aレンズ［KA］	Mレンズ［K］	Sレンズ［P］
オートフォーカス(レンズ単体使用)	○	○	×	×	×
(AFアダプター1.7×使用)	—	—	○ 注1	○ 注1	×
マニュアルフォーカス(FI表示の利用)注2	○ 注3	○ 注3	○ 注3	○ 注3	×
(マット面の利用)	○	○	○	○	○
パワーズーム	○ 注4	×	×	×	×
ズームクリップ	○ 注4	×	×	×	×
露光間ズーム	○ 注4	×	×	×	×
ハイパープログラム自動露出	○	○ 注5	○	×	×
プログラム自動露出	○	○ 注5	○	×	×
絞り優先自動露出	○	○	○	○ 注6	○ 注6
ハイパーマニュアル露出	○	○	○	○ 注6	○ 注6
プログラムTTLオートストロボ撮影	○	○ 注5	○	×	×
TTLオートストロボ撮影	○	○	○	○	○
分割測光	○	○	○	× 注7	× 注7
絞りA位置以外の絞り目安表示	○	○	×	×	×

注1：レンズの開放F値がF2.8より明るいレンズのみ。（AFアダプターの説明書をご覧ください。）
注2：ファインダー内の合焦表示 ⬭ に従って行なう手動のピント合わせ。（FI＝フォーカスインジケーター。）
注3：レンズの開放F値がF5.6より明るいレンズのみ。
注4：FAズームレンズのみ。
注5：Fソフト85mmF2.8を除く
注6：絞りにA位置がありませんので、Avダイレクトダイヤルでの絞りセットでは使用できません。
注7：Mレンズ以前（情報接点のないレンズ）は、8分割測光にならず中央重点測光かスポット測光になります。電源スイッチがグリーンポジション ■ では、中央重点測光だけになります。

説明書の構成について

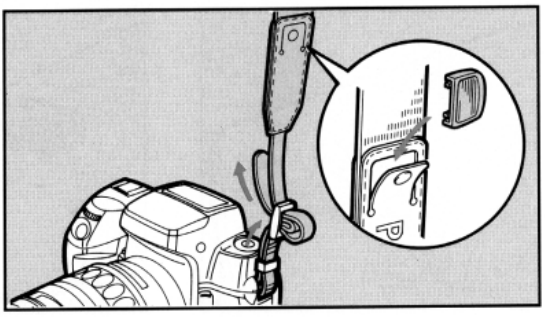
説明書を効果的にご利用いただくために、
この説明書は次のように分けられています。



- とにかくZ－5で撮影してみたい方は、「カメラの準備と基本操作」と「基本的な使い方（撮影）」をお読みください。最小限の操作を知っていただくだけで簡単な撮影がお楽しみいただけます。
- 「電池について」（93ページ）「取り扱い上の注意」（94ページ）「アフターサービスについて」（103ページ）は必ずお読みください。

Ⅰカメラの準備と基本操作

(1)ストラップを取り付けます

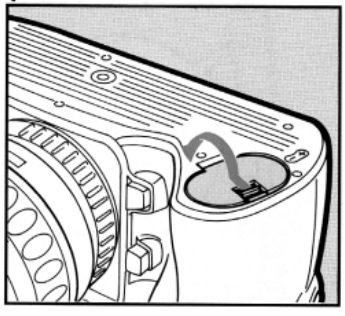


図のように、ストラップを取り付けてください。

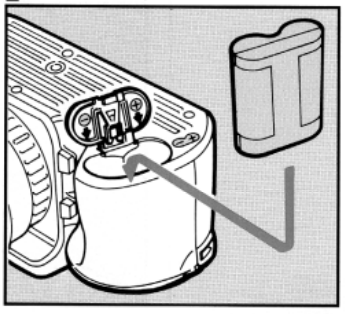
＊ストラップの先端は、留め具の内側になるように通すと、しっかり取り付けられます。
＊ストラップのポケットは、ファインダーキャップ、レリーズソケットキャップ、ホットシューカバーなどの小物入れとしてご利用ください。

(2)電池を入れます

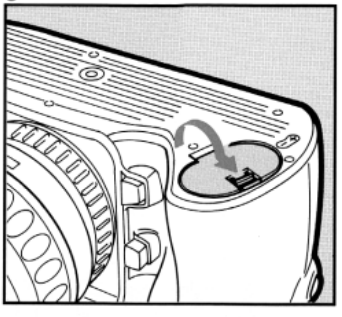
1



2



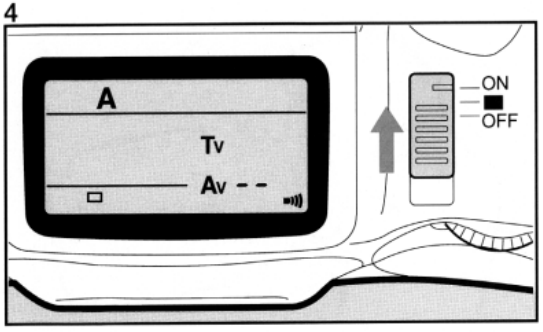
3



1. 図のように、電池ぶたの開放レバーを矢印の方向へ引いて、電池ぶたを開きます。
2. 電池の金属接点側を先に、カメラの＋－表示に合わせて電池を入れます。
3. 電池ぶたを押さえたまま、電池ぶた開放レバーを元に戻して電池ぶたを閉じてください。

＊Ｚ－５は電池で動きますから、操作をする前には、必ず決められたリチウム電池[2CR5]同等品を１個入れます。Ｚ－５には、サンプルの電池が添付されていますので、この電池をお使いください。

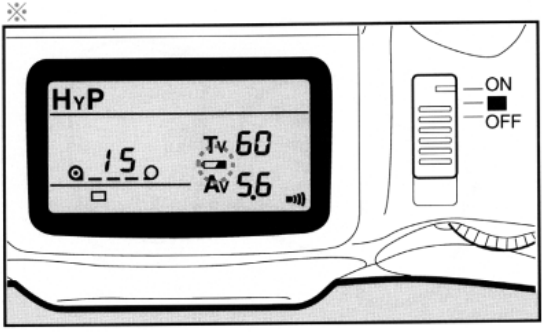
4



4. 電源スイッチをグリーンポジション■または ON にし、図のように表示パネルに表示が出ることを確認してください。

＊ レンズが取り付けられている場合には、別の表示が出ることがあります。
＊ 93ページの「電池について」もお読みください。

※



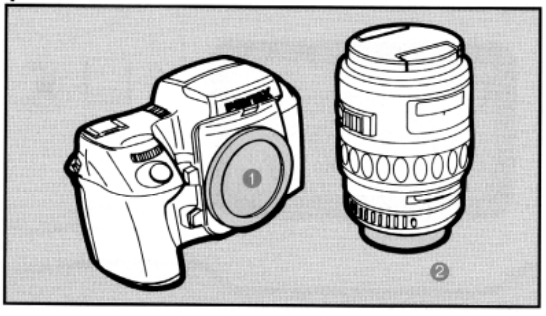
※電池が消耗した場合

電池が消耗すると、図のように表示パネルに電池警告▭が点灯します。お早めに電池を交換してください。

＊ 表示パネルの電池警告▭が点滅になると、シャッターが切れなくなり、ファインダー内に表示中のＬＣＤ表示は消灯します。
＊ 電池を入れ直すと、フィルムカウンターの値およびＩＳＯ感度の設定を除いて、Ｚ－５の諸設定は工場出荷時の初期設定に戻ります。

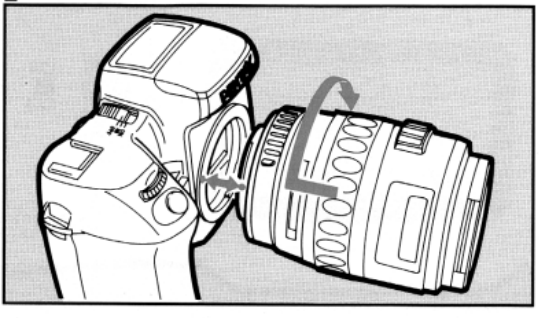
(3)レンズを取り付けます

1



1. 図のように、❶のボディカバーと❷のレンズ後カバーを外します。

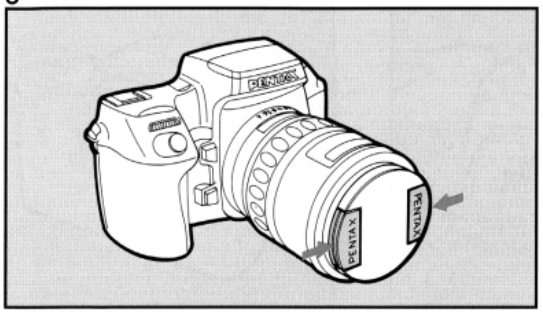
2



2. ボディとレンズの赤点指標を合わせて、レンズをボディのマウントにはめ込み、レンズを右に回すと「カチッ」と音がしてロックされます。

＊ ボディカバーは工場出荷時のキズやホコリ防止用のものです。保管用には、別売りアクセサリーとして「ボディマウントキャップK」が用意されています。
＊ ＦＡズームレンズの着脱は、不用意なズーム作動を防ぐため、電源スイッチを OFF にした状態で行なってください。

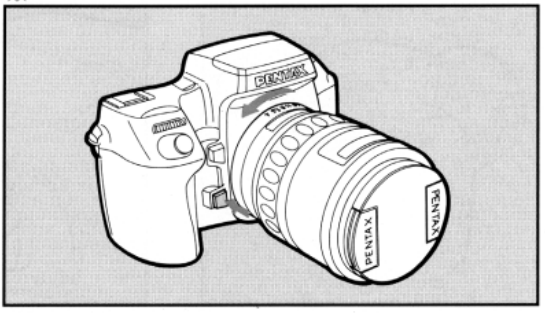
3



3. レンズの前キャップは、図のように矢印部分を内側に押すと外れます。

＊ 他社製レンズを本製品に使用されたことによる事故、故障などにつきましては保証いたしかねます。
＊ ボディやレンズのマウント面には、レンズ情報接点やＡＦカプラーがあります。この部分にゴミや汚れが付いたり、腐食が生じると、電気系のトラブルの原因になる場合があります。汚れたときは、乾いた柔らかい布できれいに拭いてください。

※

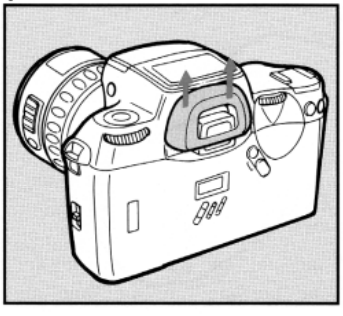


※レンズを外すには
レンズを外すときは、レンズロックボタンを押したまま、レンズを左へ回すと外せます。

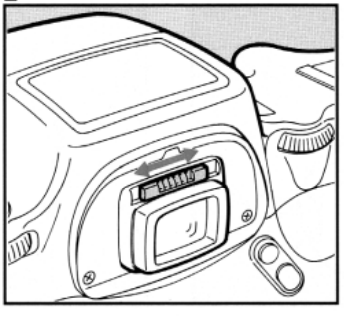
＊ 外したレンズは、接点やカプラーをキズ付けないようにマウント面を上にして置いてください。

(4)ファインダーの視度を調節します

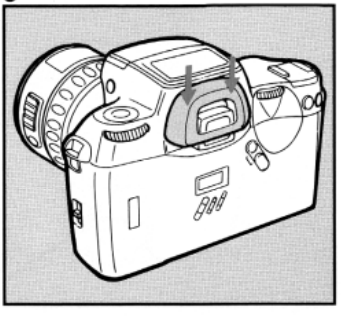
1



2



3



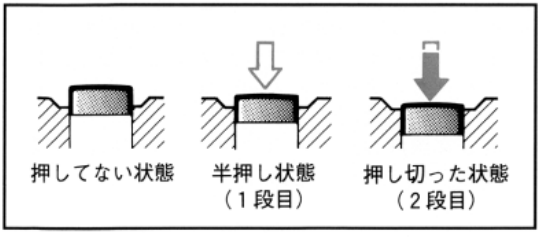
1. アイカップＦＤを図のように取り外します。
2. カメラを明るい方へ向けて、図のように視度調整レバーを左右に動かし、ファインダー内中央のオートフォーカスフレーム［　］の線が最もはっきり見える位置に調節します。
3. 調節が終わったら、アイカップＦＤをファインダー接眼部のアクセサリー取り付け溝に取り付けてください。

＊ 取り付けるときは、アイカップＦＤを上から差し込むようにしてアクセサリー取り付け溝にハメ込んでください。
＊ 視度の調節範囲は、＋1.5Ｄ～－2.5Ｄ（ディオプトリー）です。

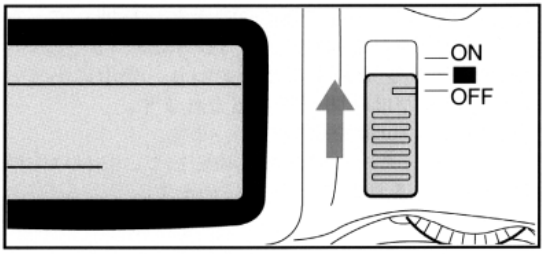
(5)シャッターボタンの操作

Z－5のシャッターボタンは2段階になっています。
シャッターボタンを半押し(1段目まで押す)すると、露出計やオートフォーカス機構が作動します。さらにシャッターボタンを押し切る(2段目まで押す)と、シャッターが切れ撮影できます。
シャッターボタンは、カメラぶれを防ぐためにも、息を止めて指の腹でゆっくり押してください。

* フィルムを入れる前に、実際にシャッターボタンを押してみて、どこまで押すと半押しになるのか、感覚をつかんでください。
* 露出計のスイッチは、シャッターボタンを半押し後、指を離しても約10秒間入ったままになります。なお、シャッターボタンの半押しを続けると、露出計スイッチも継続します。



(6)電源スイッチの操作



電源スイッチは3段階になっています。

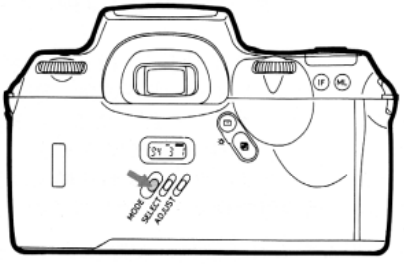
ON ＝フルスペックポジション
Z－5の全ての機能が使用可能です。

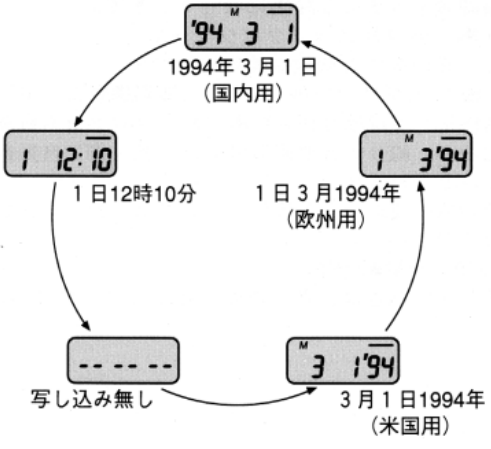
■ ＝グリーンポジション(簡易撮影モード)
露出モードは絞りがA位置では、プログラム自動露出のみ。絞りがA位置以外では、絞り優先自動露出のみとなります。
その他の使用できる機能については、23ページをご覧ください。

OFF ＝電源OFF
使わないときは、必ずこの位置にしてください。

(7)データバックを使います

右図のように、矢印のMODEボタンを押して、写し込みたい内容を選びます。表示は図のようにMODEボタンを押すごとに変わり、表示に出ている日付けまたは時間が写し込まれます。
Mは「月」の位置を表わしています。
—はシャッターを切ると点滅をして、日付けや時間が写し込まれたことを知らせます。

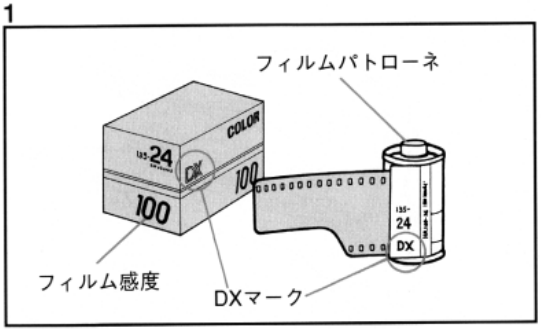




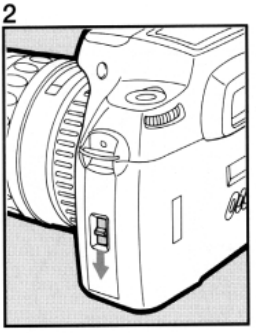
* -- -- -- にすると何も写し込まれません。
* 日付けの表示方法は、3種類あります。
* データの写る部分(画面右下)に白や黄色のものがあると、写し込まれたデータが見えにくくなりますので、構図に注意してください。
* 日付けの修正は、78ページをご覧ください。
* データバックの電池は、リチウム電池を使用します。データの写り込みが薄くなったり、データバックの表示窓の表示が薄くなったり、消えた場合には電池を交換してください。なお、電池の交換はお近くの当社サービス窓口にて受け付けております。(有料)

(8)フィルムを入れます

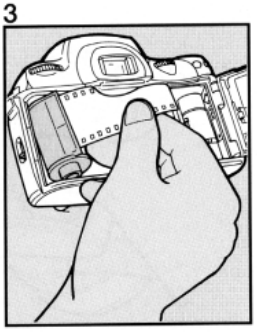
1



2



3

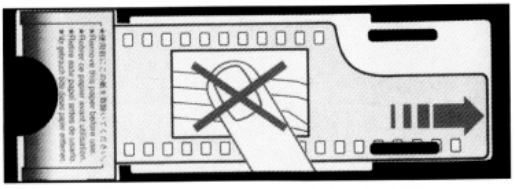


カメラの操作に慣れるまでは、カメラにフィルムを入れないで練習されることをお勧めします。

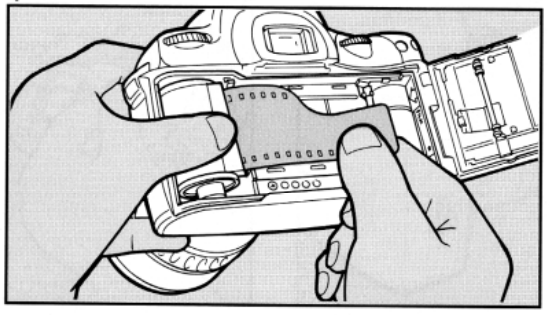
1. 図のように、DXマークの付いているフィルムを使用すると、フィルム感度は自動的に設定されます。
2. 裏ぶた開放レバーを矢印の方向へ下げると、裏ぶたが開きます。
3. フィルムの凸部側を下にして上側から先に入れ、次に下側を入れます。

＊ DXフィルムで自動感度設定ができる範囲は、ISO25～5000までとなっています。
＊ フィルムを入れるときは、直射日光が当たらないところで行なってください。

＊ DX以外のフィルムを使用するときは、80ページをご覧になり、ISO感度をマニュアルで設定してお使いください。
＊ カメラを購入後、初めてフィルムを入れるときには、裏ぶたを開けて写真のような防傷カバーをシャッター幕に触れないよう注意しながら、取り外してください。



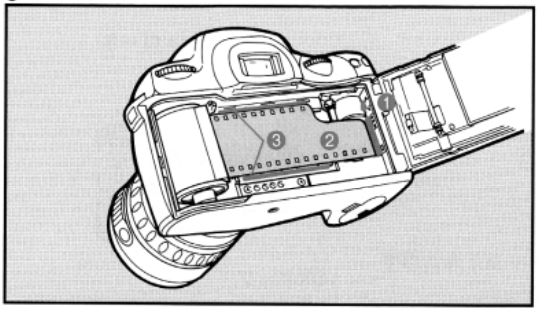
4



4. 図のように、左手でフィルムを押さえながら、指やフィルム先端がシャッター幕に触れないように気を付けて、フィルムを引き出します。

＊ フィルムを引き出し過ぎた場合は、フィルムを元に少し戻してたるみを取ります。

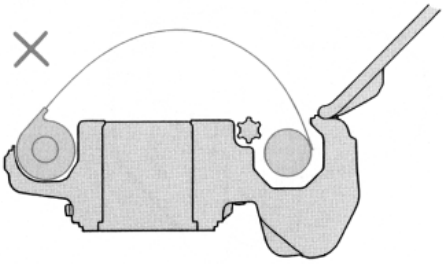
5



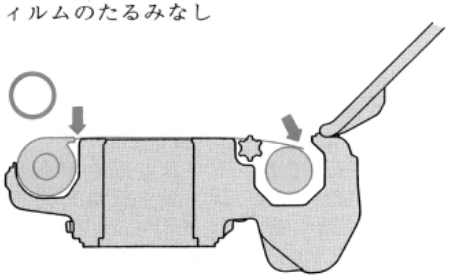
5. 図のように、フィルム先端部を❶の赤色先端マークに合わせます。

＊ フィルムの穴(パーフォレーション)を❷の歯(スプロケット)に合わせ、❸のフィルムガイド(図中、赤線部分)の間にフィルムが入っていることを確認してください。
＊ シャッター幕は非常に薄い幕でできており、精度の高いものです。手やフィルム先端などが当たりますとシャッター幕を破損させる恐れがありますので、絶対に触れないように注意してください。

フィルムのたるみあり

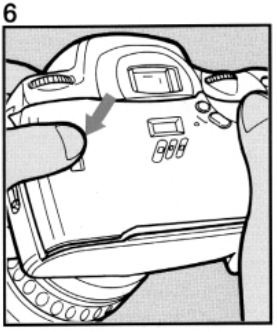


フィルムのたるみなし



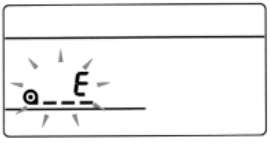
＊ フィルムの先端が極端に折れ曲がっているものは、まっすぐに直すか、曲がった部分を切り取ります。

6



6. 裏ぶたを閉め電源スイッチをグリーンポジション■か ON にすると、自動的に巻き上げられます。

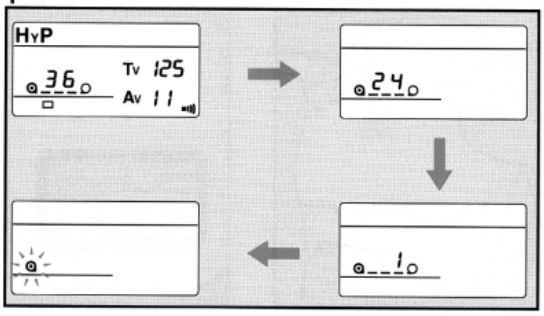
＊ 表示パネルに 1 と ⊙___0 が出ていることを確認します。



＊ 表示パネルに ⊙__E が点滅しているときはフィルムが正しく入っていません。裏ぶたを開けて、フィルムを入れ直してください。

(9)フィルムの巻き戻しについて

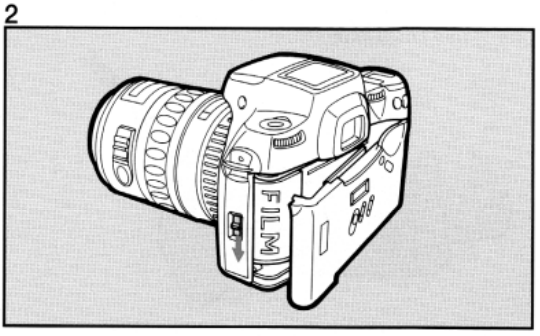
1



1. フィルムの最後まで撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。

＊ 巻き戻し中は、表示パネルに ___0 が点滅して巻き戻し中であることを知らせ、表示パネルの撮影枚数が逆算表示されます。
＊ 巻き戻しが終了すると、表示パネルの ⊙ が点滅し、撮影枚数の表示が消えます。この表示を確認してから、裏ぶたを開けてください。
＊ 巻き戻し完了時フィルムはパトローネに巻き込まれますが、フィルムを少し残すように変更できます。
変更はサービス窓口にご用命ください。(有料)

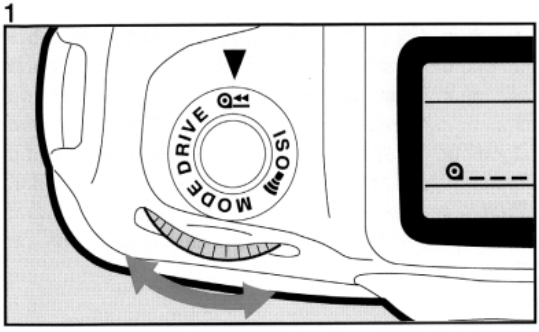
2



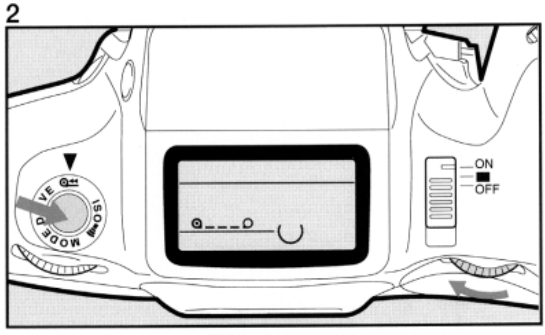
2. 裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。

＊ フィルムは直射日光が当たらないところで取り出してください。
＊ フィルムの規定枚数以上の撮影をすると、最後のコマは現像所でカットされる場合があります。大事な写真の場合は、規定枚数を撮り終わった時点で途中巻き戻しを行ない、フィルムを取り出してください。(21ページ参照)
＊ フィルム終了時自動的に巻き戻しが始まらないように変更できます。
変更はサービス窓口にご用命ください。(有料)

1



2



フィルムの途中巻き戻し

フィルムの規定枚数まで撮り終わらないうちに途中で取り出したいときに使います。

1. モードダイヤルを ⊙◀◀ に合わせます。
2. モードセットボタンを押したままＡｖダイレクトダイヤルを左に２ステップ回すと、巻き戻しを開始します。

＊ 電源スイッチが OFF になっていると、途中巻き戻しの操作はできません。

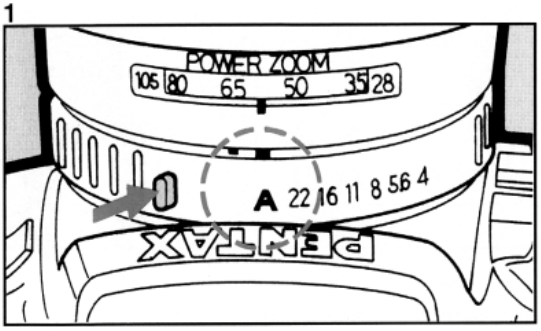
＊ 表示パネルの ⊙ の点滅を確認してからフィルムを取り出してください。

Ⅱ基本的な使い方（撮影）

(1)最も簡単な露出モードを使います

Ｚ－５カメラには、高度な自動露出機能や様々なドライブモードが付いていますが、ここでは、最も簡単に使える ■ （グリーンポジション）を使用します。レンズの絞りがＡ位置の場合、電源スイッチがこの位置では露出モードはプログラム自動露出になります。写したいものの明るさに応じてカメラが自動的にシャッター速度と絞りを決定しますのでシャッターボタンを押すだけで簡単に撮影が楽しめます。

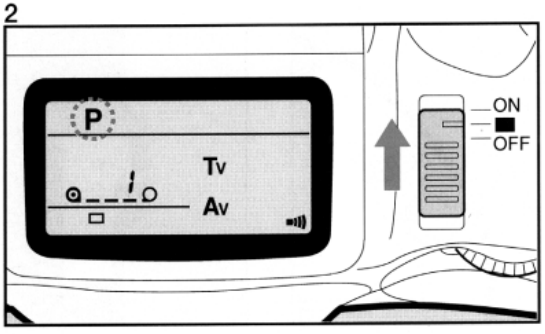
1



1. 図のように、レンズの絞りリングをA位置に合わせます。

＊ レンズの絞りをA位置に合わせる場合は、絞りオートロックボタンを押しながら回してください。なお、A位置から外す場合にも、絞りオートロックボタンを押しながらリングを回してください。
＊ レンズの絞りがA位置になっていない場合は、絞り優先自動露出に設定されますので、52ページをご覧ください。

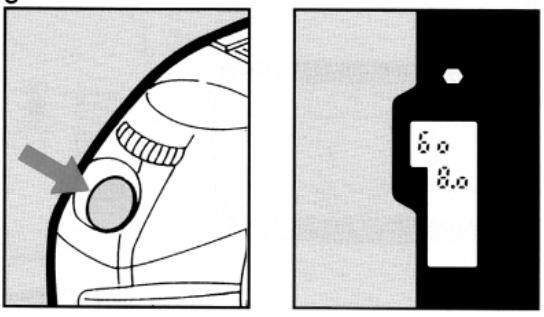
2



2. 電源スイッチをグリーンポジション■に合わせます。

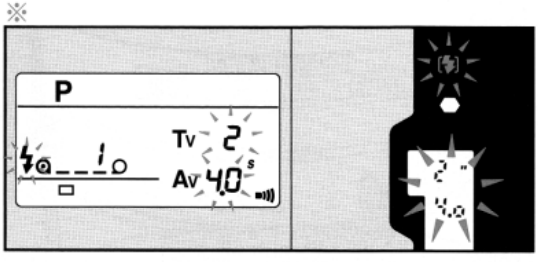
＊ 表示パネルにPが出て、プログラム自動露出に設定されます。
＊ モードダイヤルがになっていると、表示パネルにPは出ません。モードダイヤルを他の位置に変えてください。
＊ 電源スイッチがグリーンポジション■では、露出補正（56ページ）は働きません。また、測光モードは分割測光のみになります。

3



3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と、絞りが表示されます。

※



※露出警告
被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルのシャッター速度と絞り値表示が点滅して警告します。NDフィルター（明るい場合）やストロボ（暗い場合）などをご利用ください。

(2)ズームレンズの使い方

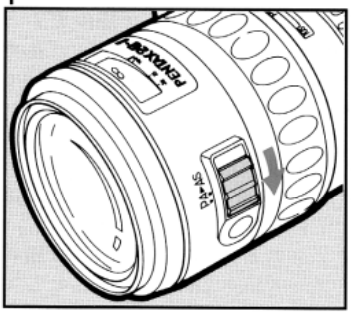
望遠側

広角側

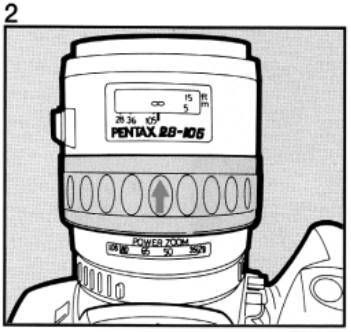
ファインダーを覗きながらズーミング操作をすると、ファインダー像が大きくなったり(テレ)、小さくなったり(ワイド)します。好みの位置に合わせて撮影してください。

* レンズの焦点距離表示の数字が小さいときは写る範囲が広い広角(ワイド)側、大きいときは遠いものを大きく写す望遠(テレ)側になります。
* Z－5にペンタックスFAズームレンズを組み合わせると、パワーズーム(電動ズーム)として使用できます。
* ペンタックスFズームレンズなどを組み合わせる場合は、マニュアルズームとしてご使用ください。

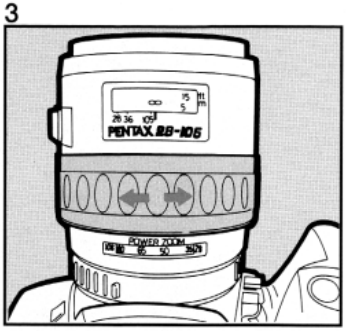
1



2



3



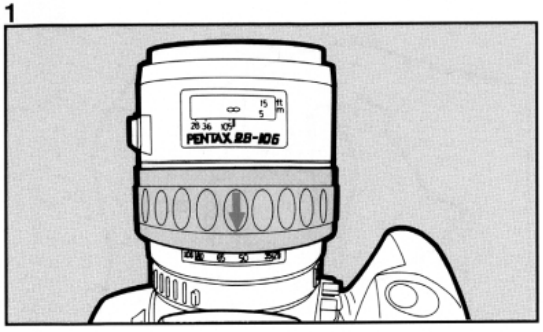
パワーズームで使用するには

* ペンタックスFAズームレンズのみパワーズームとして使用できます。

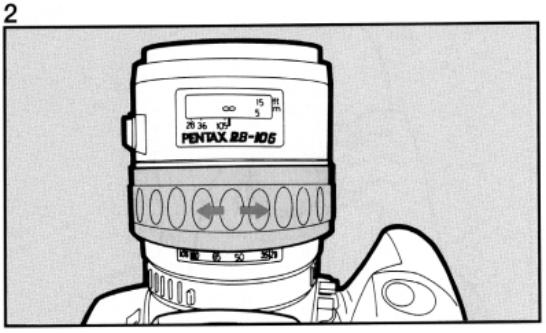
1. FAズームレンズにはオートズームスイッチが付いています。このスイッチを[P]に合わせます。
2. 図のように[POWER ZOOM]が見える状態にします。
3. ズームリングを右に回すと望遠(テレ)側へ、左に回すと広角(ワイド)側に動き、手を離すと止まります。

* ズームリングは、回転させる角度によって、ズーミング速度が3段階に変化します。ズームリングの回転角度を大きくする(当て付ける)と高速でズームが動き、小さくすると低速で動きます。その中間位置では、中速でズーミングできます。
* FAズームレンズ使用時に電源スイッチを切ると、自動的にレンズの長さが最短になります。

1



2



マニュアルズームで使用するには

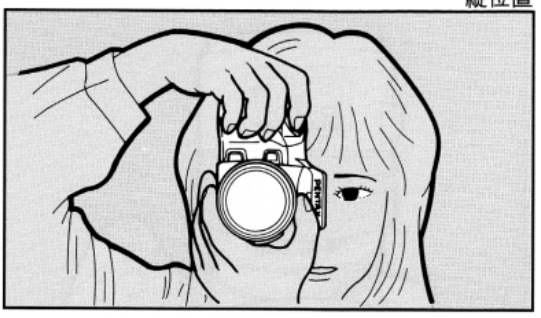
＊ ＦＡズームレンズは、ズームリングの切り替えで、マニュアルズームとしても使用できます。マニュアルズームに切り替えた場合は、Ｆズームレンズと同様に使用できます。

1. 図のように POWER ZOOM が隠れるようにします。
2. ズームリングを右に回すと望遠（テレ）側へ、左に回すと広角（ワイド）側に焦点距離が変化します。

（3）カメラの構え方

横位置

縦位置



撮影するときは、カメラの構え方が大切です。

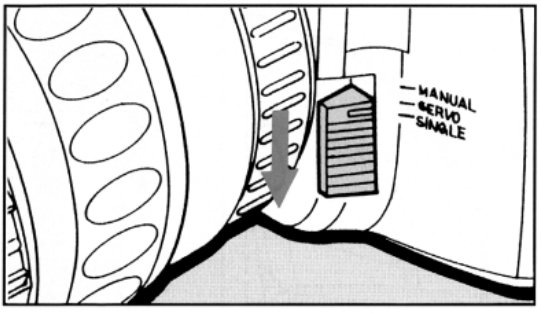
＊ シャッターボタンは指の腹で静かに押します。（強く押すとカメラぶれの原因になり、シャープな写真が撮れません。）

＊ 木や建物・テーブルなどを利用して、体やカメラを安定させることも良い方法です。

＊ 1/30以下の低速シャッターや超望遠レンズを使用するときは、なるべく三脚を使用してください。また、別売りの「ケーブルスイッチＦ」の利用をお勧めします。

＊ 特に望遠レンズで三脚を使用するときは、カメラやレンズの総重量より重い三脚を使うとカメラぶれ防止に効果があります。

(4)オートフォーカスで使います



図のように、フォーカスモードレバーには3つのポジションがあります。オートフォーカスで使うには、フォーカスモードレバーを SINGLE または SERVO に合わせます。
ここでは、フォーカスモードレバーを SINGLE に合わせておいてください。

フォーカスモードレバーについて

・ SINGLE＝シングル
シャッターボタンを押すとレンズが自動的に動いて、ピントが合うとシャッターが切れるようになる、最も一般的なオートフォーカスモードです。ピントが合っていないとシャッターは切れません。

・ SERVO＝サーボ
シャッターボタンを半押ししている間、被写体の距離が変わっても、それに合わせてピントを追い続けるオートフォーカスモードです。ピントが合っていなくてもシャッターボタンを押し込めば、いつでもシャッターが切れます。このモードでは動体予測機能も働きます。

・ MANUAL＝マニュアル
手動でピントを合わせるときに使用します。オートフォーカスの苦手な被写体などのときに使用します。(39ページ参照)

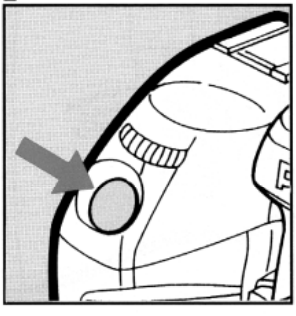
(5)オートフォーカスでピントを合わせます

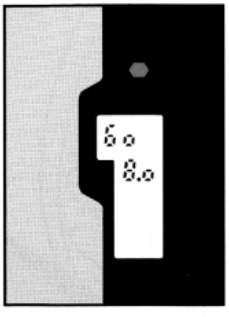
1

1. 写真のように、AFフレーム [ ] を写したいものに合わせます。
2. シャッターボタンを半押しすると自動的にピント合わせが行なわれます。

＊ 構図上、AFフレーム [ ] がピントを合わせたいものから外れる場合は、「フォーカスロック撮影(32ページ)」をご利用ください。
＊ ピントが合うと、図のようにファインダー内の ⬭ が緑色に光って、「ピピッ」と電子音が鳴ります。

2

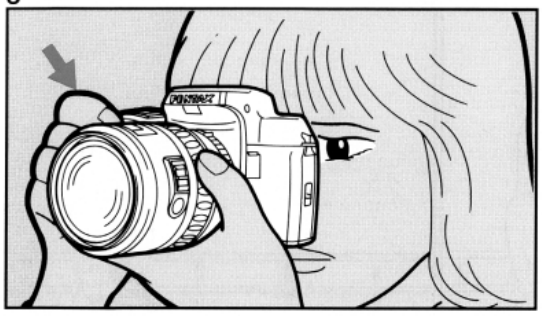




＊ モードダイヤルが ⊙ になっていると、オートフォーカスは働きません。通常はモードダイヤルを他の位置に合わせておいてください。
＊ オートフォーカス作動中は、レンズの距離リングに手をかけたり回転を妨げたりしないでください。

⬭ が点滅を続けるときは、以下の理由でピント合わせができないときです。
❶ 撮影距離が近すぎる
❷ オートフォーカスの苦手な被写体の場合(39ページ参照)

3



3. さらにシャッターボタンを押し切ると、撮影できます。

＊ ＳＭＣペンタックスＦソフト85mmF2.8レンズを使用するときは、絞りをF2.8～F4.5で撮影してください。（40ページもご覧ください）

動体予測

フォーカスモードレバーがSERVOでは、シャッターボタン半押しでピント合わせをしているときに、カメラが被写体を動体と判断すると、自動的に動体予測に切り替わります。この場合には、レンズが連続的に駆動し、被写体の位置を予測しながら常にピントを合わせ続けます。

ＡＦシングル撮影：

フォーカスモードレバーSINGLEの場合

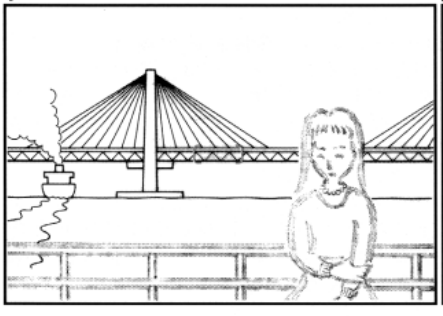
＊ ピントが合うまでシャッターは、切れません。
＊ シャッターボタンを半押しして、⬭が光っている間は、ピントが固定（フォーカスロック）されています。「フォーカスロック撮影」をご覧ください。（32ページ参照）
＊ 一度ファインダー内の⬭が点灯すると、ピントが固定されますから、別のものにピントを合わせ直すときは、シャッターボタンから指を離して押し直してください。

ＡＦサーボ撮影：

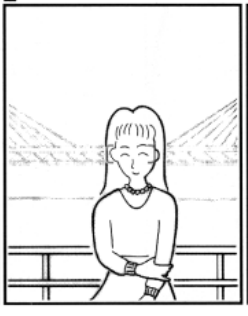
フォーカスモードレバーSERVOの場合

＊ ピント合わせに関係なくシャッターを切ることができますが、シャッターボタンを半押ししている間、ＡＦフレームを合わせたものにピントを合わせ続けます。
＊ ＡＦサーボ撮影では、動く被写体に対して動体予測を行ないますので、動く被写体に対してピントの合ったシャープな写真を期待できます。
＊ フォーカスロック撮影はできません。

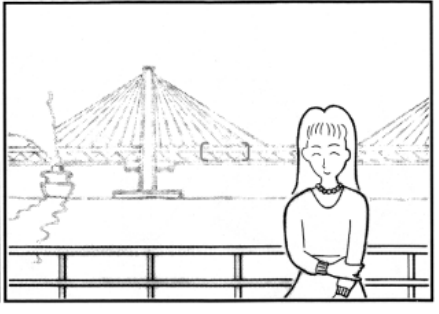
1



2



3

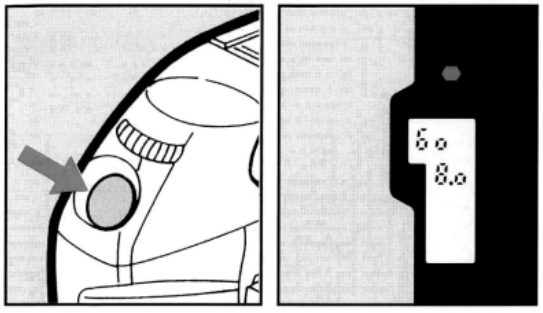


フォーカスロック撮影について

ピント合わせは画面中央のＡＦフレーム[ ]で行なわれます。
構図によって、ピントを合わせたいものが画面中央に来ないときは、フォーカスロック（ピント一時固定）撮影をするとピントの合ったきれいな写真が撮れます。

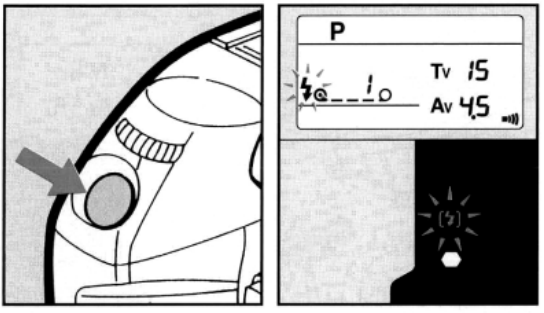
1. ＡＦフレーム[ ]が外れたままで撮影すると、図のように後ろにピントが合ってしまいます。
2. ピントを合わせたいものにＡＦフレーム[ ]を合わせて、シャッターボタンを半押し状態にして⬭を点灯させたままにしておきます。（ピントを記憶させる操作です。）
3. シャッターボタンを半押しのまま、元の構図に戻して、さらにシャッターボタンを押し切って撮影します。

＊ フォーカスモードレバーをSINGLEにしないと、フォーカスロックはできません。
＊ シャッターボタンから指を離して、ファインダー内の⬭が消えると、フォーカスロックは解除されます。
＊ 撮影距離を変えるときは、一度シャッターボタンから指を離して、フォーカスロックをやり直してください。
＊ フォーカスロックは１度撮影をすると解除されます。



シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と絞り値が表示されます。さらにシャッターボタンを静かに押し切って撮影します。
シャッターを切ると、自動的にフィルムを巻き上げ、表示パネルの枚数表示が１コマずつ進みます。

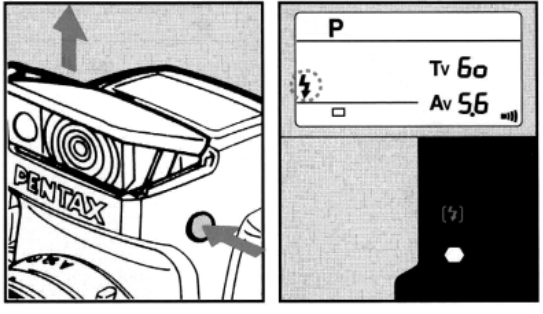
＊ モードダイヤルが ⊙◂◂ になっていると、シャッターが切れません。通常は、モードダイヤルを他の位置に合わせておいてください。



ストロボお勧め表示について

カメラの露出モードをハイパープログラム・プログラム（電源スイッチがグリーンポジション ■ の場合のみ）・絞り優先自動露出で使用した場合、写したいものが暗い場合や逆光のときに、ファインダー内 ϟ と表示パネル ϟ の点滅（ストロボお勧め表示）が出て、ストロボの使用を勧めます。
ハイパーマニュアルでは逆光の場合にのみ、ストロボお勧め表示がでます。

1



1. 図のように、ストロボスイッチを押して、ストロボを上に飛び出させます。

＊ 充電が自動的に始まり、充電が終わると、表示パネルに ϟ がファインダー内には ϟ が表示されます。（充電時間は約３秒）

2. シャッターボタンを押してストロボ撮影をします。撮影後、内蔵ストロボは矢印部分を押して収納してください。

2

（ISO 100とき）

使用レンズの開放絞り値	撮影距離範囲
F1.4～2.8	約1～約5m
F3.5	約0.8～約 4m
F4.7	約0.7～約 3m
F5.6	約0.7～約2.5m

プログラムＴＴＬオートストロボで撮影できる範囲の目安

ストロボ撮影できる距離は、上表のように、ご使用になるレンズの開放絞り値により変化しますのでご注意ください。開放絞り値は、レンズに「１：1.4」のように表示されています。（Ｆ1.4の場合）

＊ 露出モードがハイパープログラム自動露出およびプログラム自動露出（電源スイッチがグリーンポジション ■ の場合のみ）の場合、内蔵ストロボはプログラムＴＴＬオートストロボとして働きます。

＊ プログラムＴＴＬオートストロボで撮影できる最短距離は、レンズの開放絞り値がＦ4.5より暗いレンズを使用しても約0.7mと一定になります。
＊ 0.7mより近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレおよび露出がオーバーとなる場合がありますのでご注意ください。

ご使用上の注意

レンズが不適切な場合の警告表示

下記のＦおよびＦＡレンズを使用すると、充電が完了してからシャッターボタンを半押しすると表示パネルの⚡やファインダー内の⚡が点滅して警告します。

・ レンズの焦点距離が35mm未満の場合
・ レンズの焦点距離が300mm以上の場合（ＦＡズーム100～300mmの300mmを除く）
・ マクロレンズの場合

上記の範囲内（35～300mm）でも一部のＦ・ＦＡレンズでは警告が出ることがあります。

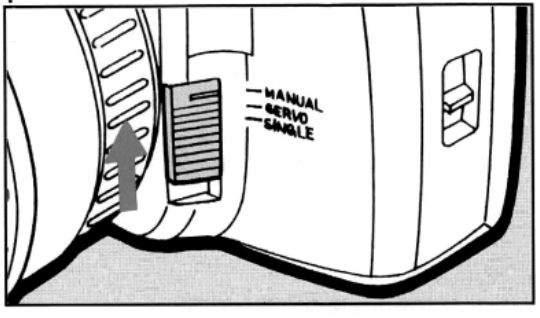
警告が出た状態で撮影すると、画面の四隅が暗くなるケラレが出たり、画面下部に半円形のケラレが出たりしますのでご注意ください。Ｆ・ＦＡレンズ以外を使用した場合は警告表示がされませんから特にご注意ください。

＊ レンズフードは、ストロボの光路を遮ることがありますので使わないでください。
＊ Ｆズーム24～50mmレンズの場合、焦点距離が28～35mmの間では警告が出ますがご使用いただけます。
＊ ＦＡズーム28～105mmレンズの場合、焦点距離が約35～40mmでは警告は出ませんが、ケラレが発生することがありますので１ｍ以上の距離で撮影してください。
＊ ＦＡ28～70mmレンズでは、全範囲でケラレが発生します。
＊ ＦＡ80～200mmレンズは、焦点距離を135mm以上にすれば使用できます。

Ⅲ応用的な使い方

(1)手動によるピント合わせ

1



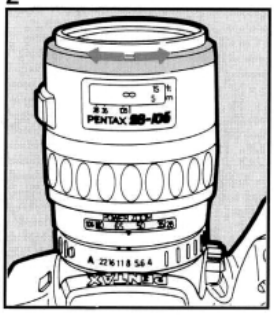
マニュアルフォーカスレンズを使う場合

従来のＫAやＫマウントレンズで、開放Ｆ値がＦ5.6以上の明るいレンズ（Ｆ1.2～5.6）を使うと、ファインダー内の合焦表示⬭を利用した手動ピント合わせができます。

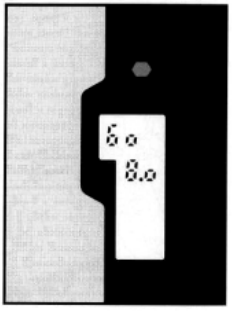
使い方

1. フォーカスモードレバーを MANUAL にセットします。

2



3



2. ファインダーを覗きながらシャッターボタンを半押しした状態で、レンズの距離リングを左右に回してください。
3. ピントが合うとファインダー内の合焦表示⬭が点灯して知らせます。そのままシャッターボタンを押し切って撮影してください。

＊ ピントが合うと、ファインダー内の合焦表示⬭の点灯と同時に「ピピッ」と電子音が鳴ります。
＊ KAFおよびKAF2マウントレンズを使用しても、フォーカスモードレバーを MANUAL にセットすると同じ操作になります。

＊ 旧タイプのねじ込み取り付け式レンズを別売りの「マウントアダプターK」で取り付けても、ファインダー内の合焦表示⬭によるピント合わせはできません。

スナップインフォーカス撮影について

KAおよびKマウントレンズを使用して、フォーカスモードレバーを SINGLE にセットすると、別売りのケーブルスイッチFを利用してピントが合ったときに自動的にシャッターが切れるスナップインフォーカス撮影ができます。

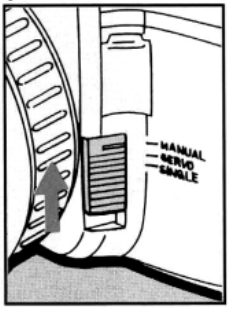
1. レンズはKAおよびKマウントレンズを使用します。
2. フォーカスモードレバーを SINGLE にセットします。
3. 写したいものが通りそうな位置にピントを合わせます。
4. ケーブルスイッチFを使って、シャッターボタンを押し切った状態にします。
5. 写したいものがピントを合わせた位置に来ると、自動的に撮影されます。

オートフォーカスが使えない場合

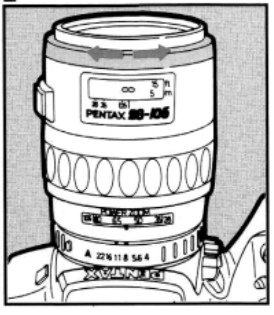
以下の理由で、オートフォーカスやファインダー内の合焦表示⬭が使えない場合は、ファインダーのマット面を利用して手動でピント合わせをしてください。

a) 「オートフォーカスの苦手な被写体」で合焦表示⬭が点滅するとき。
b) 開放F値がF5.6より暗いレンズを使っているとき。
c) ベローズ100mmF4、シフト28mmF3.5（シフト状態）、レフレックスタイプのレンズを使用したとき。
d) 旧タイプのねじ込み取り付け式レンズを別売りの「マウントアダプターK」で取り付けて使用したとき。

1



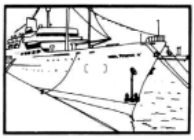
2

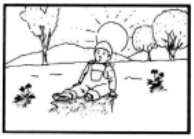


使い方

1. フォーカスモードレバーを MANUAL にセットします。
2. ファインダーを覗きながら、レンズの距離リングを左右に回してファインダー内の映像が最もはっきり見えるようにピントを合わせ、撮影してください。

(2)オートフォーカスの苦手な被写体





オートフォーカス機構はきわめて高精度のものですが、万能ではありません。被写体の明るさ・コントラスト・形状・大きさなどによって、ピントが合わない場合があります。ファインダー内の合焦表示[○]を利用してピント合わせを行なう手動ピント合わせも同様です。そんなときは、被写体とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロックをしたり、フォーカスモードレバーを[MANUAL]にセットして、従来の一眼レフカメラと同様にファインダーのマット面を利用して手動ピント合わせを行なってください。

a) ＡＦフレーム[ ]に白い壁などの極端にコントラスト(明暗差)の低い被写体がある場合。

b) ＡＦフレーム[ ]に光を反射しにくい被写体がある場合。

c) 非常に速い速度で移動している被写体。

d) ＡＦフレーム[ ]に横線のみの被写体や細かな模様の被写体がある場合。

e) 遠近のものがＡＦフレーム[ ]の中で同時に存在する場合。

f) 反射の強い光、強い逆光(周辺が特に明るい被写体)。

アクセサリーの注意

以下の条件では、オートフォーカスやファインダー内の合焦表示[○]を利用した手動ピント合わせができません。ファインダー内のマット面で手動ピント合わせをしてください。

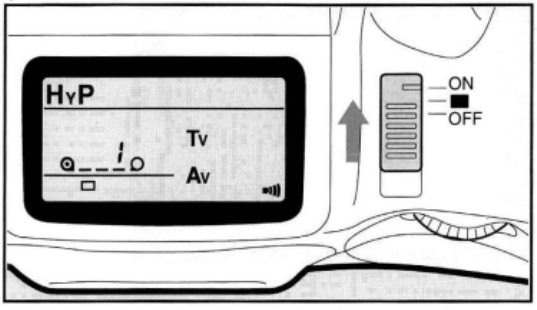
a) 特殊なフィルターや「マジックイメージアタッチメント」・「ステレオアダプター」などを使った場合。
b) オートフォーカス機構の一部にハーフミラーを使用していますので、一般の偏光フィルターを使うとオートフォーカスの精度が低下します。オートフォーカスで使用するときには円偏光フィルターをご利用ください。
c) 「接写リング」や「オートベローズ」を使った拡大接写撮影の場合。

ＳＭＣペンタックスＦソフト85mmＦ2.8使用時の注意

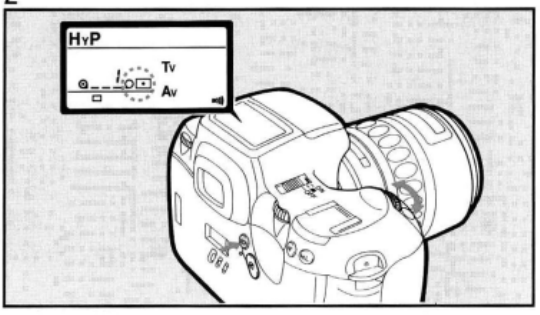
約1.5mより近距離の撮影をするときは、レンズの絞りをＦ2.8～4.5でご使用ください。これより小絞り(Ｆ5.6～32)にすると、カメラのオートフォーカス(ＦＩも同様)が誤合焦することがあります。Ｆ5.6以上の絞りを使う場合には、一旦レンズの絞りをＦ4.5に合わせてピント合わせを行ない、フォーカスロックをしたまま希望の絞りに戻して撮影してください。
1.5m以上の撮影では、問題なく使えます。

(3)測光モードの切り替えについて

1



2



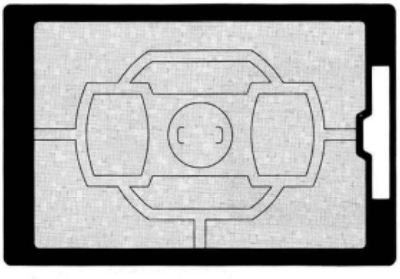
Z－5は、撮影者の好みで測光モードを分割測光からスポット測光に切り替えることができます。
スポット測光は被写体の限られた部分だけに露出を合わせたいときなどにご利用ください。

切り替え方法

1. 電源スイッチを［ＯＮ］にします。
2. 測光モード切り替えボタン［⊡］を押しながらＴｖダイレクトダイヤルを回すと分割測光とスポット測光を交互に切り替えることができます。

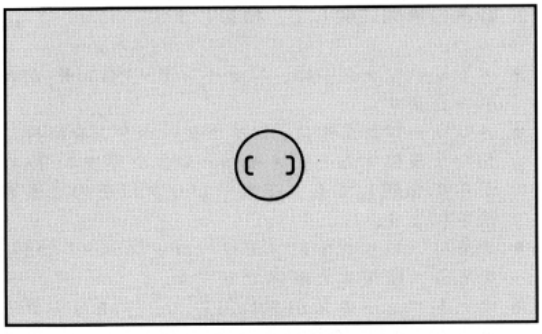
＊ Ｔｖダイレクトダイヤルを回し、表示パネルに［⊡］が出ていれば、スポット測光、出ていなければ分割測光です。シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にも［▣］が表示されます。

＊ 電源スイッチがグリーンポジション［■］では、測光モードは分割測光になり測光モードの切り替えはできません。
＊ レンズ情報接点のないＡレンズより前のレンズを使用したときは、分割測光は使用できませんので、中央重点測光かスポット測光をご利用ください。表示パネルに［⊡］（ファインダー内は［▣］）が表示されていればスポット測光です。電源スイッチがグリーンポジション［■］では、中央重点測光だけとなります。
＊ Ａレンズ５０mmＦ1.2の場合、絞りＡ位置以外では分割測光になりません。また、絞りＡ位置では、露出が約２ＥＶオーバーになることがありますので、絞りをＡ位置以外にするか露出補正（マイナス補正）をご利用ください。
＊ 測光モードの切り替えを分割とスポットから分割と中央重点に変更することができます。
変更はサービス窓口にご用命ください。（有料）



8分割測光について

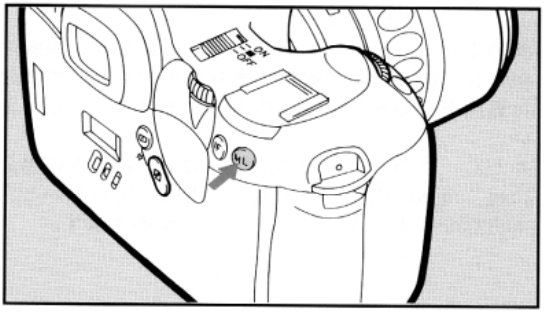
Z－5は、高精度のＴＴＬ８分割測光モードが採用されています。図のように画面の中を分割して測光を行ない、様々な光の条件下で最適な露出を得ることができます。
例えば、従来の平均測光方式では逆光の人物撮影のときなどに、背景の明るい部分が全体の露出に影響を与えるため、写したい人物がどうしても暗くなってしまいます。これに対して分割測光では、画面のどの部分にどんな明るさのものがあるのかカメラが判断し、そのまま撮影しても人物が暗くならないように露出を決定します。その他、逆光以外の明暗差がある条件下でも画面を分割して露出値を計算し、自動的に露出補正をしますから、初心者の方でも安心して撮影を楽しんでいただけます。



スポット測光について

図のように、ファインダー中央部にある丸の内側の限られた範囲だけで露出を測りますので、この部分に露出を合わせたい被写体を入れて撮影してください。

ただし、この部分と他の部分の明暗差が大きい場合には、全体の明るさを考慮して露出を決めないと、不自然な写真になってしまうことがあります。



メモリーロックについて

メモリーロックは、撮影前の露出をカメラに記憶させるもので、スポット測光と組み合わせて使用すると便利です。

被写体が非常に小さく、適正露出を得るのが難しい状態のときなどにお使いください。

1. 露出を合わせたい物がスポット測光の範囲いっぱいに入るようにして、メモリーロックボタン ML を押します。

＊ メモリーロックボタン ML を押すと10秒間タイマーが働き、露出が記憶されます。

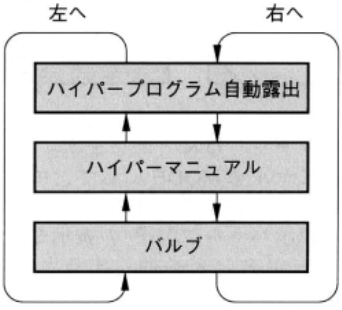
2. 好みの構図に戻して、撮影します。

＊ メモリーロック中は、ファインダー内に ✱ が表示されます。
＊ メモリーロック中に、シャッターボタンを半押ししたままにすると、メモリーロックボタン ML から指を離してもメモリーロックはそのまま継続されます。
＊ メモリーロック中にメモリーロックボタン ML をもう一度押すと解除できます。
＊ オートフォーカスが SINGLE で、メモリーロックボタン ML を押したとき、オートフォーカスが作動するように変更できます。
変更はサービス窓口にご用命ください。（有料）

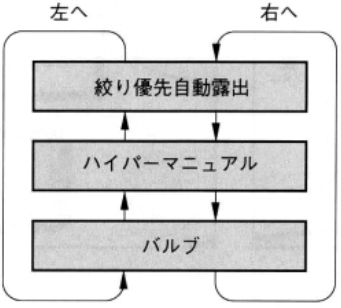
(4)各露出モードを選びます

電源スイッチが ON (フルスペックポジション)では図のように露出モードを矢印の順で変えることができます。それぞれの露出モードについては、各ページの説明をご覧ください。

絞りがA位置の場合



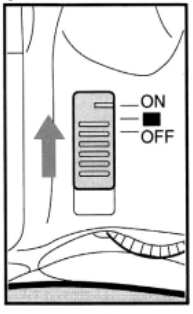
絞りがA位置以外の場合



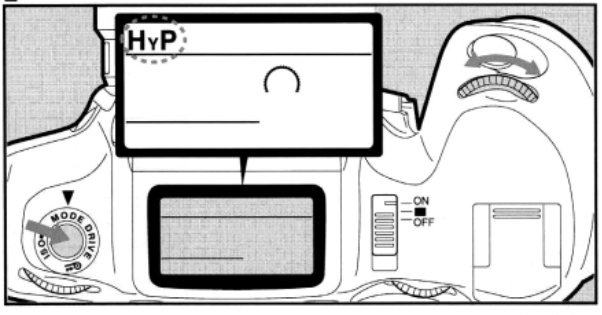
以下の場合には、絞りをA位置から外してご使用ください。なお、Aレンズより前のレンズ(Aポジションのないレンズ)を使用する場合も同様の扱いになります。

- プレビューボタンにより被写界深度を確認する場合。
- 接写リングなど、絞りの連動がきかないアクセサリーを使用した場合。
- 旧タイプのストロボで、絞りがA位置で使えないもの。

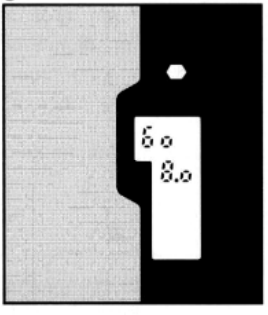
1



2



3



1)ハイパープログラム自動露出の使い方

ハイパープログラム自動露出は、プログラム自動露出(22ページ参照)でありながら、ワンタッチでシャッター速度優先自動露出や、絞り優先自動露出に切り替えられるモードです。

絞りをA位置にします。

1. 電源スイッチを ON にします。
2. モードダイヤルを MODE にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに HyP の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルにシャッター速度と絞りが表示されます。

シャッター速度を変えたい場合

Ｔｖダイレクトダイヤルを回すと、即座にシャッター優先自動露出に切り替わります。

＊ シャッター速度は、絞り値が連動する範囲内でしか設定できません。

＊ 明るさが変わり、絞り値が連動範囲外になったときは、自動的にシャッター速度がシフトし、表示パネルの∩とファインダー内のシャッター速度表示の下の横棒が点滅します。

＊ ＩＦボタンを押すと、ハイパープログラム自動露出に戻ります。

※露出警告

被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルの表示が点滅して警告します。明るすぎるときは、ＮＤフィルターなどをご利用ください。暗すぎるときは、ストロボなどをご利用ください。

絞りを変えたい場合

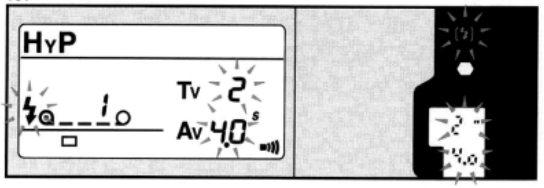
Ａｖダイレクトダイヤルを回すと、即座に絞り優先自動露出に切り替わります。（52ページ参照）

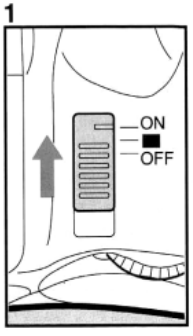
＊ 絞り値は、シャッター速度が連動する範囲内でしか設定できません。

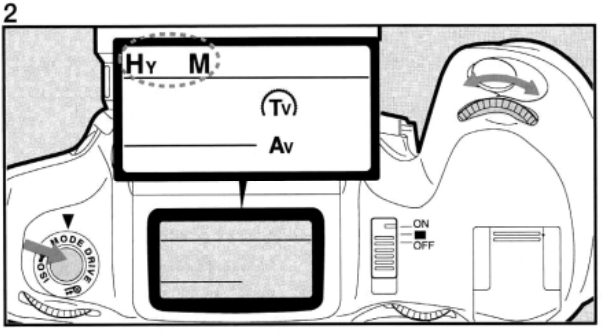
＊ 明るさが変わり、シャッター速度が連動範囲外になったときは、自動的に絞り値がシフトし、表示パネルの∪とファインダー内の絞り値表示の下の横棒が点滅します。

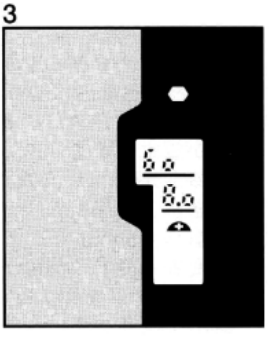
＊ ＩＦボタンを押すと、ハイパープログラム自動露出に戻ります。

※









2) ハイパーマニュアル露出の使い方

シャッターボタンを半押しすると、露出計が働きます。露出計の指示に従って、シャッター速度や絞りを調節すれば、適正露出が得られますが、撮影者の作画意図に合わせた露出で撮影することもできます。

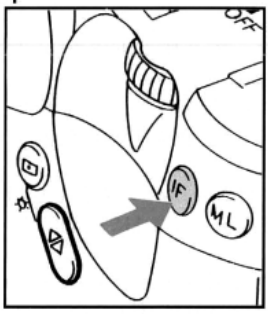
Ｚ－５のハイパーマニュアルには、ボタン操作一つで瞬時に適正露出が得られる便利な機能があります。

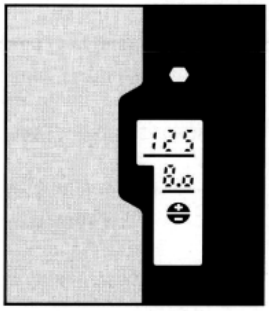
絞りをＡ位置にした場合

1. 電源スイッチを［ＯＮ］にします。
2. モードダイヤルを［MODE］にして、モードセットボタンを押しながらＴｖダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに［HYM］の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にシャッター速度、絞り値と［▲］あるいは［▼］が表示されます。

＊ 表示パネルの∩と∪およびファインダー内のシャッター速度と絞り表示の下の横棒は、ＴｖダイレクトダイヤルとＡｖダイレクトダイヤルによって、シャッター速度と絞り値が変更可能であることを表しています。

4





4. IFボタンを押すと、シャッター速度と絞り値が自動的に切り替わり、即座に適正露出が得られます。

＊ ファインダー内に⊖が表示されます。その後、Ａｖダイレクトダイヤルで絞りを、Ｔｖダイレクトダイヤルでシャッター速度を変えれば、好みの露出値で撮影することができます。

＊ IFボタンを押したままシャッターボタンを押すと、明るさが変化しても常に適正露出が得られるように、シャッター速度と絞り値が変化しますので、プログラム自動露出と同じ使い方ができます。

＊ ⊕の点灯は＋１ＥＶ以内の露出オーバー、⊖の点灯は－１ＥＶ以内の露出アンダーです。それ以上のオーバー、アンダーのときは⊕あるいは⊖が点滅します。

＊ 被写体が明るすぎたり暗すぎて、測光範囲外になったときは、ファインダー内と表示パネルのシャッター速度と絞り値表示の両方が点滅します。ＮＤフィルター（明るい場合）やストロボ（暗い場合）などをご利用ください。

メモリーロックとの組み合わせ

絞りがＡ位置のハイパーマニュアルのとき、メモリーロックボタンMLを押して、露出値を記憶させることができます。（44ページメモリーロック参照）この状態で、Ｔｖダイレクトダイヤルを回してシャッター速度を変えるとそれに応じて絞り値が、逆にＡｖダイレクトダイヤルを回すとそれに応じてシャッター速度が変化し、同じ露出値を保ちます。

使用方法

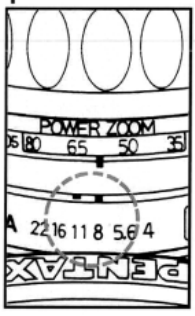
1. 絞りをＡ位置にする。
2. 露出モードをハイパーマニュアルにする。
3. メモリーロックボタンMLを押して露出値を記憶させる。
4. Ｔｖダイレクトダイヤルでシャッター速度を、Ａｖダイレクトダイヤルで絞り値を変化させます。

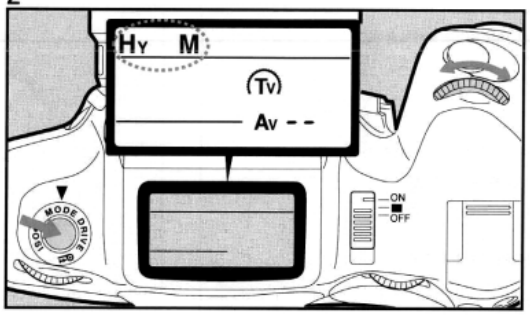
（例）

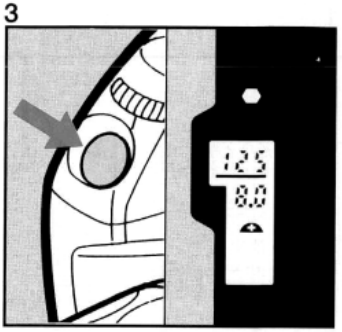
シャッター速度が1/125秒、絞り値がＦ８でメモリーロックを行なった場合。

- Ｔｖダイレクトダイヤルでシャッター速度を1/250秒にすると自動的に絞り値はＦ5.6に変わります。
- Ｔｖダイレクトダイヤルでシャッター速度を1/60秒にすると自動的に絞り値はＦ11に変わります。
- Ａｖダイレクトダイヤルで絞り値をＦ5.6にすると自動的にシャッター速度は1/250秒に変わります。
- Ａｖダイレクトダイヤルで絞り値をＦ11にすると自動的にシャッター速度は1/60秒に変わります。

このように、メモリーロック後にシャッター速度や絞り値を変化させても、常に同じ露出値を保ちます。







絞りをA位置以外にした場合

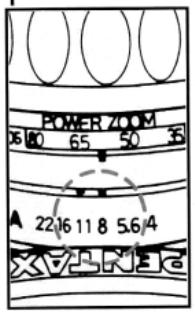
1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
2. モードダイヤルを MODE にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに HYM の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルに設定絞りの目安およびシャッター速度が表示されます。ファインダー内には、あるいはも表示されます。
   絞りリングで絞りを、Tvダイレクトダイヤルでシャッター速度を変えます。

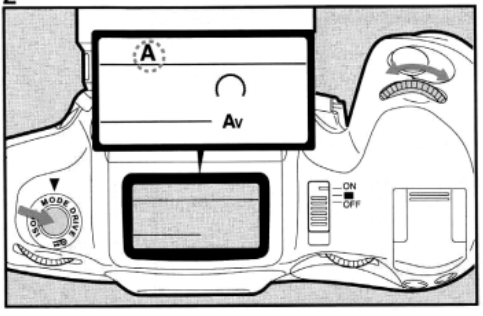
＊ 露出の合わせ方と露出警告は、絞りがA位置の場合と同じですが、IF ボタンを押すとシャッター速度だけが切り替わります。（48ページ参照）

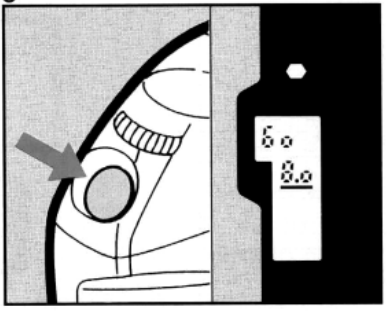
＊ FAおよびF以外のレンズ使用の場合は、表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安は表示されません

＊ IF ボタンを押したままシャッターボタンを押すと、シャッター速度が明るさによって変化しますので、絞り優先自動露出と同じ使い方ができます。

＊ プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。
プレビューボタンを押したまま露出を合わせると、正しい露出が得られません。







3) 絞り優先自動露出の使い方

希望の絞りを合わせると、被写体の明るさに応じてシャッター速度が自動的に変わって適正露出が得られます。ピントの合う範囲を広くしたい風景写真や、背景をぼかしたい人物の撮影などに適しています。

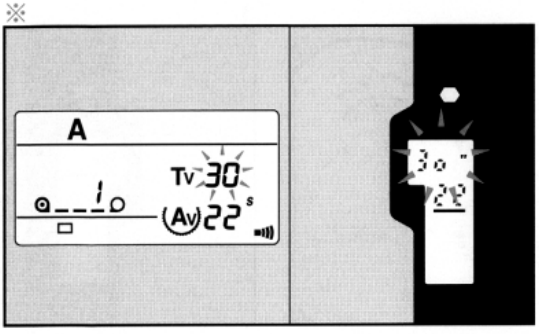
1. 絞りをA位置以外の好みの位置にします。
2. モードダイヤルを MODE にして、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに A の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルに絞り値の目安とシャッター速度が表示されます。

＊ FAおよびF以外のレンズ使用の場合は、表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安は表示されません

＊ 電源スイッチがグリーンポジション■で、絞りをA位置以外にした場合もこのモードになります。

＊ プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。なお、プレビューボタンを押したままシャッターを切ると、正しい露出が得られません。

※

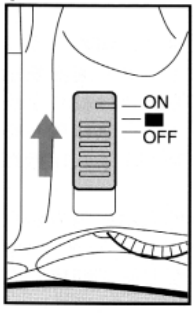


※露出警告

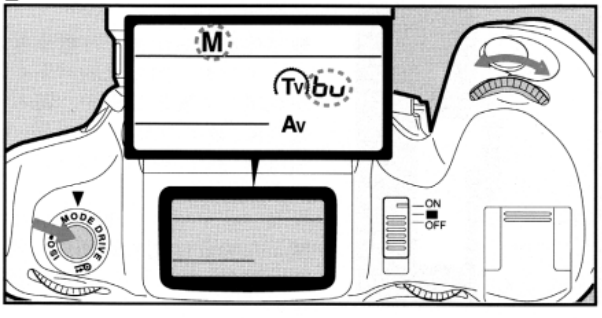
被写体が明るすぎたり暗すぎるときは、図のようにファインダー内や表示パネルのシャッター速度表示が点滅して警告します。明るすぎるときは絞りを小絞り側（数字の大きい方）に、暗すぎるときは絞りを開放側（数字の小さい方）にして点滅が止まれば撮影できます。

なお、シャッター速度表示と絞り値表示の両方が点滅した場合は測光範囲外です。ＮＤフィルター（明るい場合）やストロボ（暗い場合）などをご利用ください。

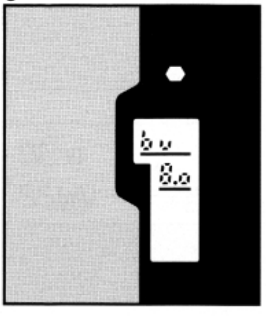
1



2



3



4）バルブの使い方

花火、夜景などの撮影で長時間シャッターを開いておく必要のあるときにご利用ください。シャッターボタンを押している間、シャッターが開き続けます。

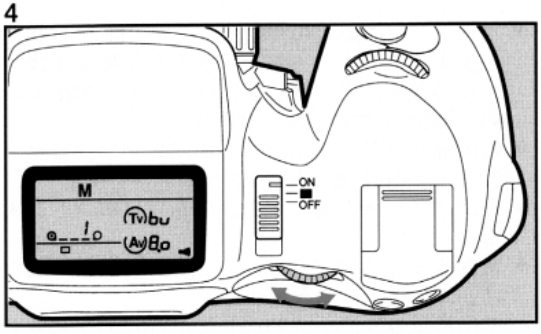
＊ 新品のリチウム電池（常温）で、約６時間の長時間露出ができます。
＊ シャッターボタンを押している間、表示パネルの右上に露出時間の目安が表示されます。

絞りＡ位置の場合

1. 電源スイッチを［ＯＮ］にします。
2. モードダイヤルを［MODE］にして、モードセットボタンを押しながらＴｖダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに［M］と［bu］の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に［bu］と絞り値が表示されます。

＊ 表示パネルの［∪］およびファインダー内の絞り表示の下の横棒は、Ａｖダイレクトダイヤルによって絞り値が変更可能であることを表わしています。

4



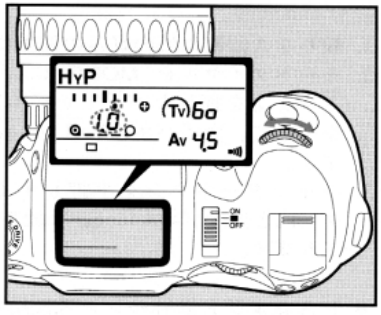
4. ＡｖダイレクトダイヤルでＡ値を選びます。

絞りをＡ位置以外にした場合

1. 絞りをＡ位置以外の好みの位置にします。
2. モードダイヤルを MODE にして、モードセットボタンを押しながらＴｖダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに M と bu の表示を出します。
3. シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内と表示パネルに bu と絞り値の目安が表示されます。

＊ ＦＡおよびＦ以外のレンズ使用の場合は、表示パネルとファインダー内に設定絞りの目安は表示されません
＊ プレビューボタンを押すとレンズはセットした絞り値まで絞られ、ファインダー内で被写界深度が確認できます。
＊ バルブで撮影するときは、しっかりした三脚を使用し、別売りの「ケーブルスイッチＦ」をレリーズソケットキャップＦＤを外してからレリーズソケットに差し込んでご利用ください。

(5)露出補正について



意図的に露出オーバー(明るい写真)や露出アンダー(暗い写真)にしたいときに露出を補正するために使います。

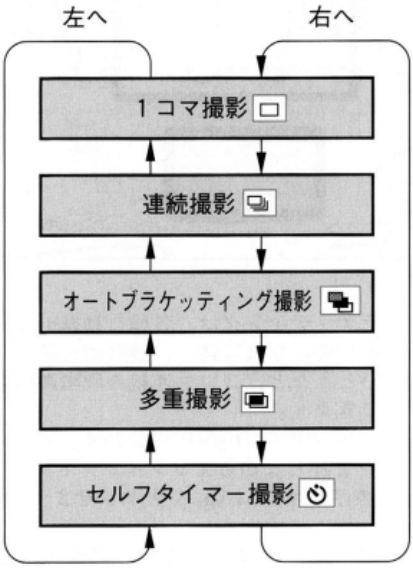
セット方法

露出補正ボタン を押したままＴｖダイレクトダイヤルを回して希望の補正値を選びます。

＊ 補正は－４～＋４ＥＶの範囲で0.5ＥＶごとに行えます。
＊ バーグラフの黒丸の移動量１つが0.5ＥＶに相当します。ただし、－３～＋３ＥＶを越えて設定した場合は、表示パネルのバーグラフの ⊕ あるいは ⊖ が点滅して知らせます。
＊ 露出補正中は、表示パネルのバーグラフとファインダー内の ± が表示されます。
＊ 電源スイッチを切っても露出補正は解除されません。
＊ 電源スイッチがグリーンポジション ■ の場合は、露出補正は働きません。
＊ 露出補正のステップを0.5ＥＶから0.3ＥＶに変更することができます。
変更はサービス窓口にご用命ください。(有料)

(6)ドライブモードを選びます

ドライブモードの種類



□ ：シャッターボタンを押し切ると、1コマだけシャッターが切れます。

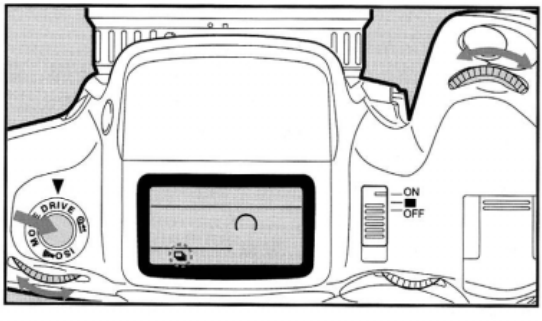
□ ：シャッターボタンを押し切っている間、連続的にシャッターが切れます。(58ページ)

□ ：3コマ連続で露出補正撮影をします。(58ページ)

□ ：同じコマに、重ねて撮影します。(61ページ)

□ ：セルフタイマー撮影をします。(63ページ)

＊ 電源スイッチがグリーンポジション■の場合、多重露出撮影およびオートブラケッティング撮影はできません。

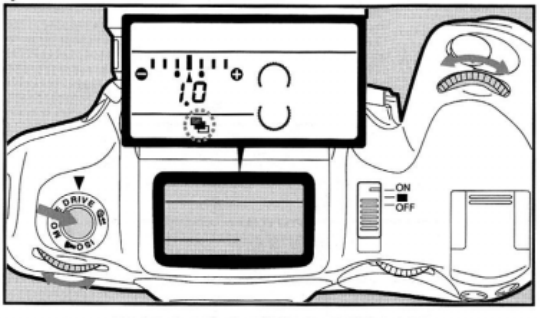


1)連続撮影

シャッターボタンを押している間、連続的にシャッターが切れます。

モードダイヤルを[DRIVE]に合わせ、モードセットボタンを押しながら、Tvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに□を表示させます。

1



2)オートブラケッティング撮影

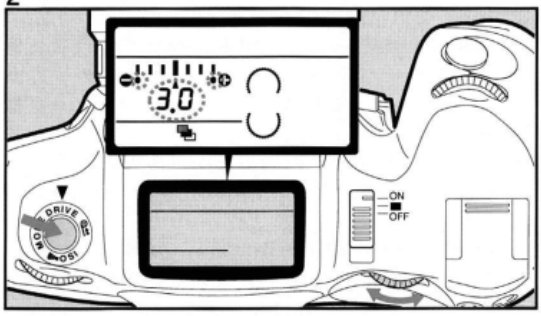
オートブラケッティングは、各種自動露出で撮影時に露出補正が必要な被写体で、最終的な補正値を決定しにくいときなど、3コマ連続の段階露出を行なうことができます。

1. モードダイヤルを[DRIVE]に合わせ、モードセットボタンを押しながらTvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに□を表示させます。

＊ 表示パネルにバーグラフと補正値が表示されます。

＊ 電源スイッチがグリーンポジション■では、オートブラケッティング撮影はできません。

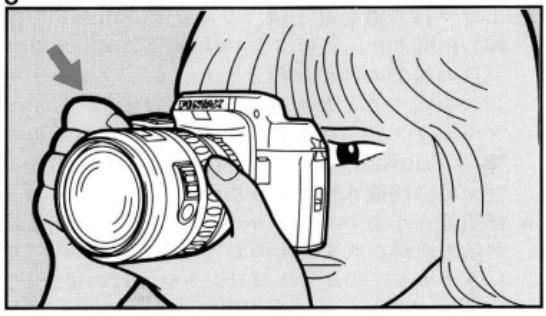
2



2. モードセットボタンを押したままＡｖダイレクトダイヤルを回して、補正量を決めます。

＊ 補正は－４～＋４ＥＶの範囲で0.5ＥＶごとに行えます。
＊ バーグラフの黒丸の移動量１つが0.5ＥＶに相当します。
ただし、－３～＋３ＥＶを越えて設定した場合は、表示パネルのバーグラフの ⊕ あるいは ⊖ が点滅して知らせます。

3



3. シャッターボタンを押し切ると、記憶させた補正量に従って３コマ連続的に撮影されます。

＊ １コマ目＝±０、２コマ目＝アンダー露出、３コマ目＝オーバー露出の順で撮影されます。
ただし、撮影中に明るさが変化した場合は、シャッターが切れる直前の明るさに対してオーバー・アンダーに制御されます。
＊ 電池を入れ替えるまでは前回の補正量が残っています。

＊ １コマ目の撮影終了後、シャッターボタンを半押しに戻すと、表示パネルの 🗗 が点滅して２コマ目の撮影の待機状態となり、シャッターチャンスを待つことができます。このとき、シャッターボタンから指を離した場合、表示パネルの 🗗 は約10秒間点滅した後点灯に変わり、再度１コマ目の待機状態に戻ります。
＊ 補正量が小さい場合、ネガフィルムではほとんど効果が得られませんのでご注意ください。（特にネガカラーのオートプリント仕上げの場合。）
＊ オートブラケッティング撮影中は、１コマごとに測光を行ないます。
＊ ピントは、１コマ目の撮影位置でフォーカスロックされます。
＊ 内蔵ストロボを使用すると、オートブラケッティング撮影モードは解除され、１コマ撮影モードになります。

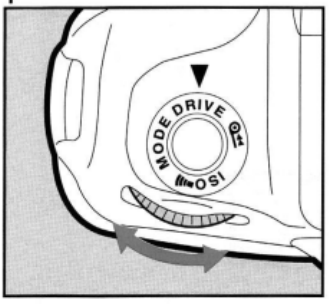
露出補正と組み合わせて使う場合

「露出補正」（56ページ）と組み合わせて使うと、例のようにオーバー方向（＋）のみやアンダー方向（－）のみの、より高度なオートブラケッティング撮影が可能です。

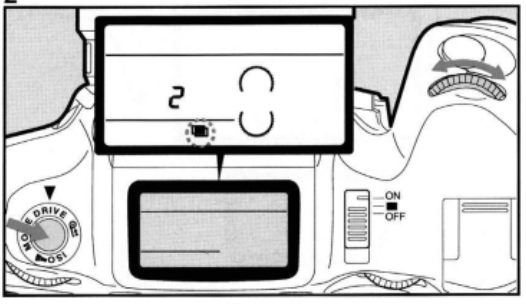
例）オーバー方向だけの補正をかけるとき。

1. オートブラケッティングの補正量を±0.5EVに設定する。
2. ＋0.5EVの露出補正をかける。（56ページ参照）
3. この状態でオートブラケッティング撮影をすれば、１コマ目＝＋0.5EV・２コマ目＝±０EV・３コマ目＝＋１EVの補正がされます。

1



2



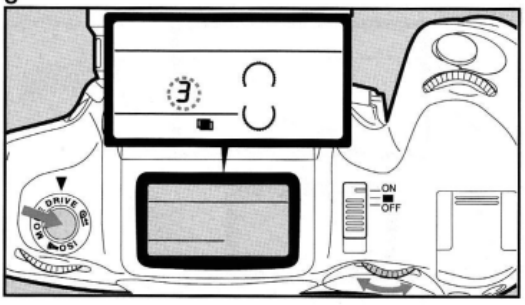
3) 多重露出撮影の使い方

フィルムの同じコマに重ねて撮影できますので、アイデア次第で面白いトリック写真などを作ることができます。
多重露出では、背景が黒いもの(夜景など)に人物などをストロボ撮影で重ねると比較的良い結果を得ることができます。

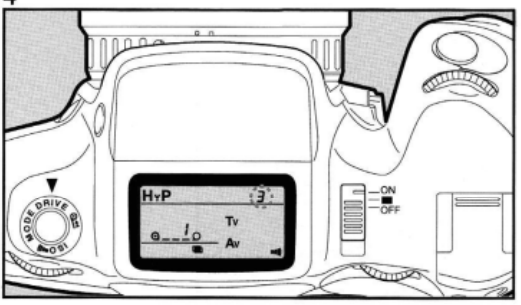
1. モードダイヤルを[DRIVE]に合わせます。

2. モードセットボタンを押しながら、Ｔｖダイレクトダイヤルを回して表示パネルに[▣]を表示させます。

3



4



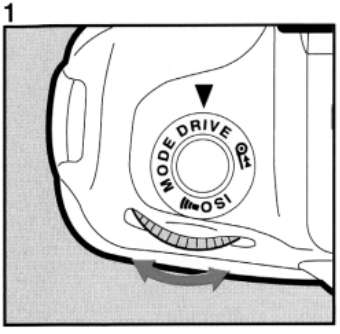
3. モードセットボタンを押したまま、Ａｖダイレクトダイヤルを回して、多重露出の回数(１コマの中に写し込む回数)を決めます。

＊ １回の多重露出で設定できる写し込み回数は、２～９回です。

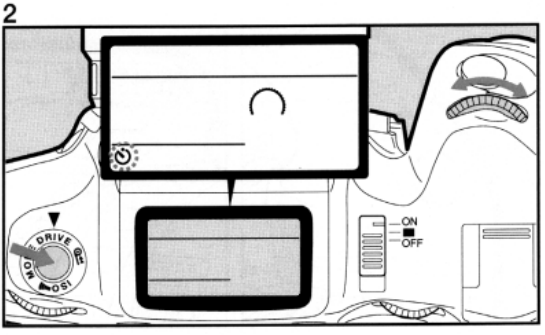
4. モードセットボタンから指を離すと、設定した回数が表示パネルの右上に表示されます。

＊ シャッターボタンを押して撮影する度にこの表示は減算されます。
＊ 多重露出の途中は、ＬＣＤ表示パネルの[▣]が点滅してお知らせします。
＊ 多重露出撮影を途中で解除したいときは、他のドライブモードに変更するか、電源スイッチを[OFF]かグリーンポジション[■]にしてください。なお、電源スイッチで解除した場合は、電源スイッチを[ＯＮ]に戻したとき、１コマ撮影モード[□]になります。
＊ 撮影終了後は多重露出の回数設定は２に戻り、ドライブモードは１コマ撮影[□]になります。

1



2



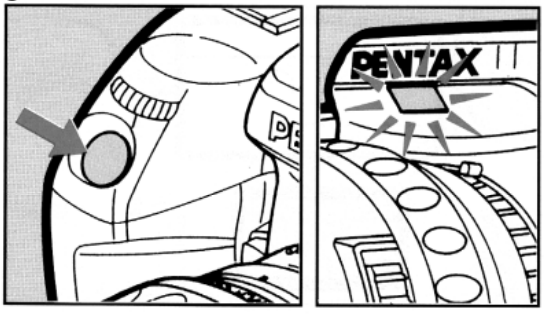
4) セルフタイマー撮影の使い方

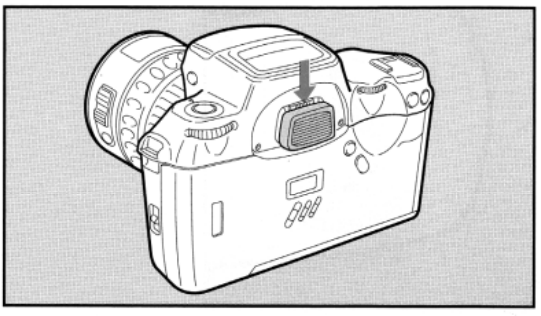
セルフタイマー撮影は、撮影者も入って記念撮影などをするときに使います

1. モードダイヤルを[DRIVE]に合わせます。

2. モードセットボタンを押しながら、Tvダイレクトダイヤルを回して表示パネルに[⏲]を表示させます。

3





3. シャッターボタンを半押しして写したいものにピントを合わせたままシャッターボタンを押し切ると、セルフタイマーが始動し、約12秒後にシャッターが切れます。

＊ セルフタイマーの作動中は、セルフタイマーランプと電子音で知らせ、シャッターが切れる約2秒前から、ランプは点滅に変わり、電子音も速い断続音「ピッピッピッ」になります。なお、[🔊]設定により、電子音を消すこともできます。

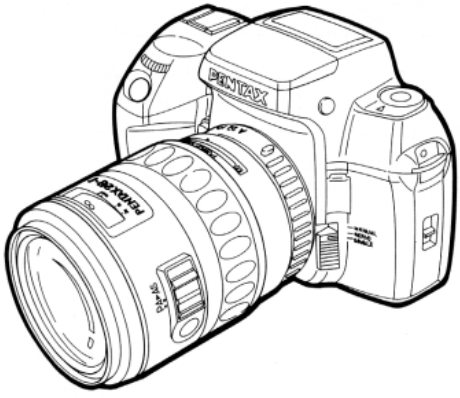
＊ セルフタイマーを始動後に中止したいときは、電源スイッチを[OFF]にしてください。この場合、セルフタイマー撮影モードは解除されません。

＊ セルフタイマー撮影時は、ファインダーからの逆入光により露出に影響を受ける場合があります。自動露出使用時はメモリーロックや(44ページ参照)付属のファインダーキャップをご利用ください。

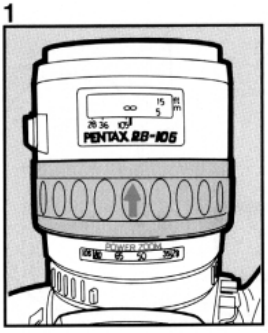
＊ フォーカスモードが[SINGLE]のときは、ピントが合わないとセルフタイマーは始動しません。

(7)パワーズームの拡張機能

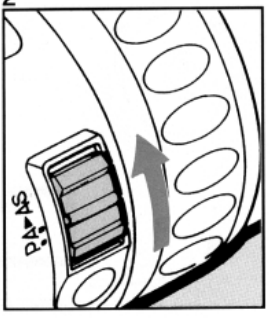
ＦＡズームレンズをＺ－５と組み合わせると、次のオートズーム機能を使うことができます。
①ズームクリップモード
②露光間ズームモード



1



2

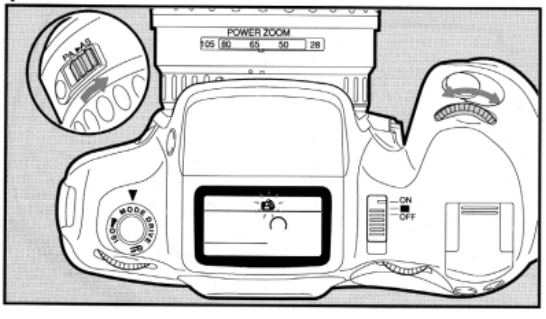


オートズーム機能を使うための準備

1. 図のように POWER ZOOM が見える状態にします。
2. レンズのオートズームスイッチを [A] (一部のレンズでは [A Z])に合わせます。

＊ これで、各種オートズーム機能が使える状態になります。各機能の使い方については、それぞれのページをご覧ください。

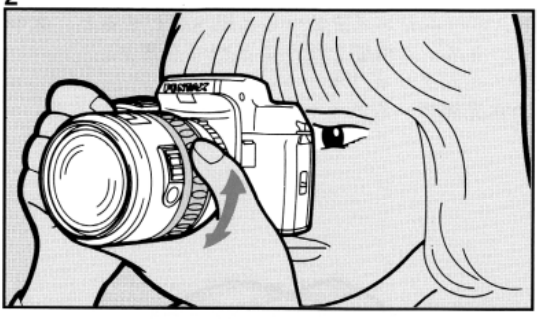
1



①ズームクリップモードの使い方

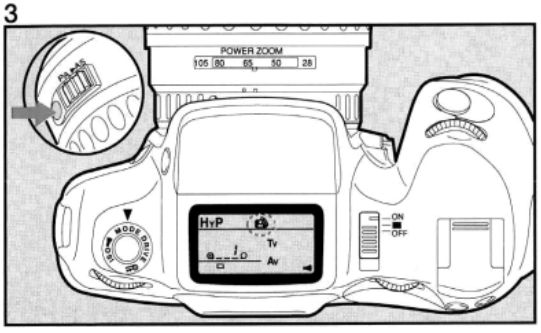
ズームクリップモードは、カメラに焦点距離をあらかじめ記憶させておくことで、必要なときにボタン一つでその焦点距離を呼び出す機能です。
例えば、動きの激しいスポーツ写真で、予測される場面の撮影範囲(焦点距離)を記憶させておけばシャッターチャンスをつかむのに有利になります。

2



1. レンズのオートズームスイッチを [A S] (一部のレンズでは [MODE])側に押し付けたままTv ダイレクトダイヤルを回して、表示パネルの [📷] 表示を点滅させてください。
2. ファインダーを覗きながら、ズームリングを回して、好みの焦点距離に合わせます。

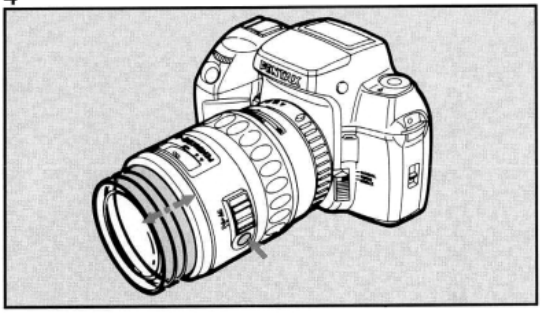
3



3. レンズのズームセットボタンを押すと、表示パネルの[📷]表示が点灯に変わり、焦点距離が記憶されます。

＊新たに焦点距離を記憶させた場合は、前の内容は消えてしまいます。
＊電源スイッチを[OFF]にしても、記憶した内容は消えません。なお、電池を入れ直すと記憶していた内容は消えてしまいますのでご注意ください。
＊電源スイッチが[ON]またはグリーンポジション[■]のままレンズを外したり、レンズの交換をすると記憶している内容が消えてしまいます。記憶した内容を残したい場合は、電源スイッチを[OFF]にした状態で行なってください。

4



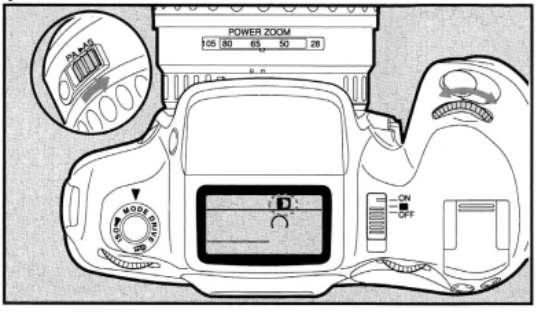
4. ズームセットボタンを押して、記憶した焦点距離を呼び出して撮影します。

＊ズームクリップモードを解除するときは、オートズームスイッチを[P](一部のレンズでは[PZ])に戻してください。

②露光間ズームモードの使い方

露光間ズームは、シャッターを開いて露光を行なっている間に広角側から望遠側にオートズーミングすることによって、被写体映像の芯をとらえながら、輪郭を放射方向に流した写真を作ることができます。

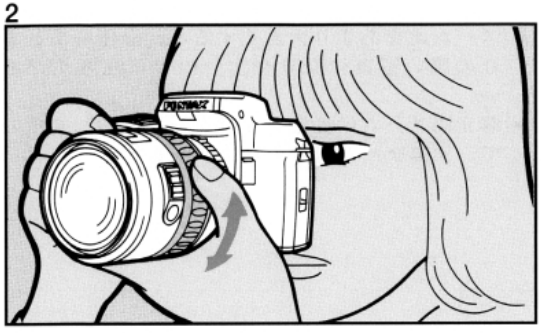
1



1. レンズのオートズームスイッチを[AS](一部のレンズでは[MODE])側に押し付けたままTvダイレクトダイヤルを回して、表示パネルに[◨]表示を出してください。

＊露光間ズームモードを解除するときは、オートズームスイッチを[P](一部のレンズでは[PZ])に戻してください。
＊露光間ズームモードでは、外付けストロボを後幕シンクロにセットしても先幕シンクロで制御されます。

2



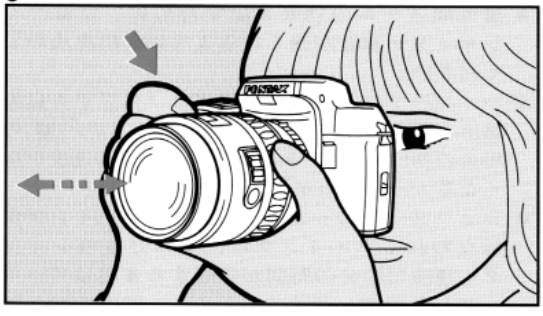
2. ズームリングを操作し、撮影意図に合うような広角側の焦点距離にしてください。

＊露光間ズームの効果を出すために、なるべくシャッター速度が遅くなるように露出を決めてください。

＊ハイパープログラム自動露出とプログラム自動露出（電源スイッチがグリーンポジション■の場合のみ）では、できるだけシャッター速度が遅くなるように露出が決定されます。

＊シャッターを切ってから、オートズーミングが行なわれるタイミングは、そのときのシャッター速度の半分の時間が経過するまではズーミングしないで、後半（シャッター速度の残り時間）でオートズーミングを行ないます。例えば、シャッター速度を１秒に設定すると、シャッターを切ってから0.5秒間はズーミングしないで、後半の0.5秒間だけオートズームを行ないます。

3



3. シャッターボタンを押し切ると、そのときのシャッター速度に応じて露光間ズームを行ない撮影します。

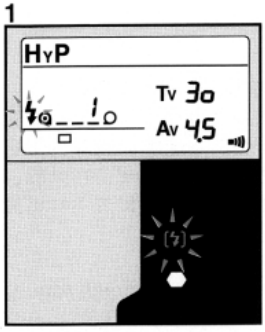
＊シャッター速度が速いと、ズーミングする時間が短くなり、ほとんどオートズームされないので、露光間ズームの効果が得られません。例えば、28～105mmレンズの場合に28mmから105mmまでオートズームするのに約１秒かかりますので、シャッター速度を２秒以上に設定しないと28mm～105mmまでのズーミングはされません。なお、シャッター速度を遅くしすぎると、ズーミング終了後もシャッターが開いているため、被写体の芯が２つできることになります。

＊ズーム比をあまり大きくすると、全体にまとまりの悪い写真になりやすいのでご注意ください。

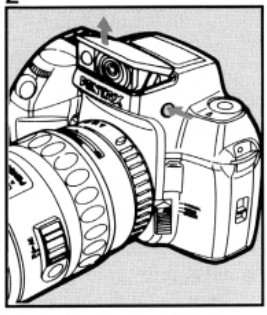
＊露光間ズームは低速シャッターで撮影しますので、三脚などの利用をお勧めします。

(8)内蔵ストロボを使います

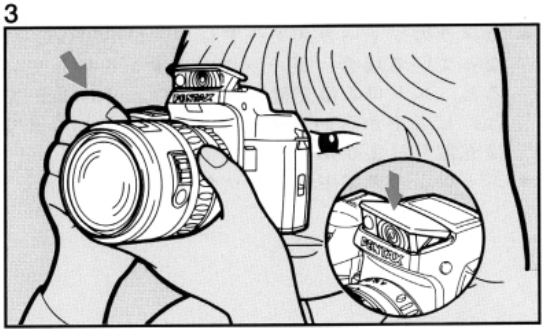
1



2



3



Z－5の内蔵ストロボは、周りが暗いときや、逆光のときなどに、周りの明るさに合わせて、シャッター速度と絞りが組み合わされますので、簡単にストロボ撮影ができます。

1. ハイパープログラム自動露出にし、シャッターボタンを半押しすると、周りが暗いときや逆光のときは、表示パネルに[ϟ]、ファインダー内に[ϟ]が点滅して、ストロボの使用を勧めます。
2. ストロボスイッチを押して、ストロボを上に飛び出させます。

＊充電が自動的に始まり、充電が終わると表示パネルに[ϟ]が表示されます。シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内にも[ϟ]が表示されます。

3. シャッターボタンを押し切ってストロボ撮影をします。

＊明るさによってシャッター速度は、1/250秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。

＊撮影後、内蔵ストロボは矢印部分を押して収納してください。

＊カメラのフォーカスモードレバーが[SERVO]になっている場合、シャッターボタンを押していると、ストロボは充電されません。[SINGLE]では、ピントが合いフォーカスロックされるまでは充電されません。

＊ストロボの充電中はシャッターは切れません。

絞り優先自動露出、ハイパーマニュアル露出を使うとき

ピントの合う範囲(被写界深度)を変えて撮影したいときや撮影距離を遠くしたいときなどに、絞りを自由に調節してストロボ撮影ができます。絞り優先自動露出のときは、周りの明るさに合わせて自動的にシャッター速度が変化しますので簡単にストロボ撮影ができます。

絞り優先自動露出

＊明るさによってシャッター速度が1/250秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、Aレンズ以前のレンズ使用時は、1/250秒固定になります。ハイパーマニュアルで[ＩＦ]ボタンを押したときも同様です。

＊ハイパープログラム自動露出からＴｖダイレクトダイヤルでシャッター優先自動露出にしたとき、設定可能なシャッター速度範囲は1/250秒から絞りが最小絞りになるときのシャッター速度までです。

＊ハイパープログラム自動露出からＡｖダイレクトダイヤルで絞り優先自動露出にしたとき、設定可能な絞り値の範囲は、シャッター速度が変化できる範囲です。

ハイパーマニュアル露出

＊絞りやシャッター速度（1/250秒以下）を自由に変えてストロボ撮影ができますので、低速シンクロにご利用いただけます。（75ページ参照）

使用絞りから撮影距離を計算します

遠距離側の目安　ＧＮ÷使用絞り
近距離側の目安　遠距離側目安÷4.9（注）
ただし、0.7m以下の距離では使えません。0.7mより近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレおよび露出がオーバとなる場合がありますのでご注意ください。

※ＧＮ＝ガイドナンバー
注：割り算で使用した数値の「4.9」は、Ｚ－５の内蔵ストロボを単独で使用した場合のみに適用される数値です。

撮影距離から使用絞りを計算します

ＧＮ÷撮影距離＝使用絞り

計算で出た数字が「３」のようにレンズの絞り値にない値になったときは、一般的に数字の小さい方（2.8）にします。
なお、ＧＮは使用するフィルム感度（ＩＳＯ）により下の表のようになります。

ISO25 →	ＧＮ７	ISO200 →	ＧＮ20
ISO50 →	ＧＮ10	ISO400 →	ＧＮ28
ISO100 →	ＧＮ14		

ここでＩＳＯ100のフィルムを絞りＦ3.5で使うときの例をあげます。
ストロボの撮影距離範囲を計算します。
ＧＮ14÷Ｆ3.5＝４
４÷4.9＝約0.8
従って、約0.8ｍから４ｍの範囲でストロボが使えます。

日中シンクロについて

逆光で被写体の顔が陰になってしまうような場合に、ストロボを利用すると陰の取れたきれいな写真が撮れます。

ハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出（電源スイッチがグリーンポジション■の場合のみ）絞り優先自動露出では、シャッター速度、あるいは絞り値が周りの明るさによって変化しますのでそのままストロボ撮影をするだけで簡単に日中シンクロができます。

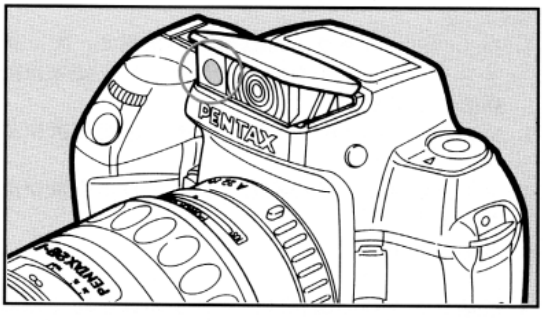
低速シンクロについて

暗い背景で人物撮影をするとき、ストロボを利用すると、人物にはストロボ光が当たり、背景も遅いシャッター速度でバランス良く写せます。

使用方法

1. ハイパープログラム自動露出の状態で、Ｔｖダイレクトダイヤルを回してシャッター優先自動露出にします。
2. 1/250秒以下の好みのシャッター速度を選びます。
3. ストロボスイッチを押して、ストロボを飛び出させます。
4. 撮影します。

＊ 低速シンクロの場合は、カメラぶれを防ぐため三脚をご使用ください。
＊ ハイパーマニュアル露出でも低速シンクロはできます。



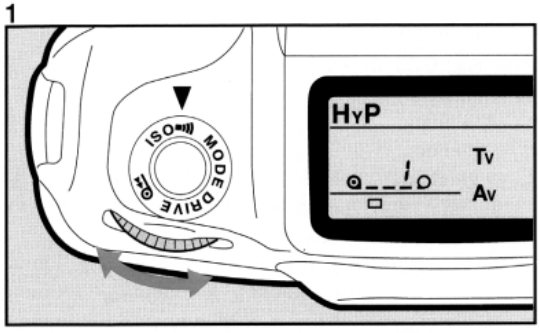
ＡＦスポットビームについて

暗いところではオートフォーカスの精度が低下しますが、こんなとき内蔵ストロボを飛び出させてシャッターボタンを半押しすると、赤色光（ＡＦスポットビーム）を自動的に投光して約１～４ｍの範囲で快適にオートフォーカスを作動させることができます。

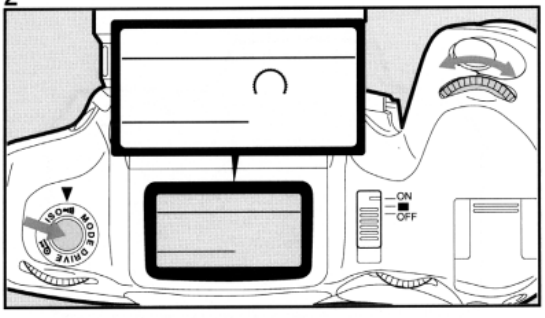
＊ ＡＦスポットビームが働くのは、フォーカスモードレバーが SINGLE の場合だけです。
＊ ストロボを使いたくないときは、ピントが合ったところでフォーカスロックしたまま、内蔵ストロボを収納してください。
＊ AF330FTZなど、外付けストロボのＡＦスポットビームを使用するときは、内蔵ストロボのＡＦスポットビームは働きません。
＊ 明るいところでは、ＡＦスポットビームは作動しません。

(9)電子音を消すには

1



2



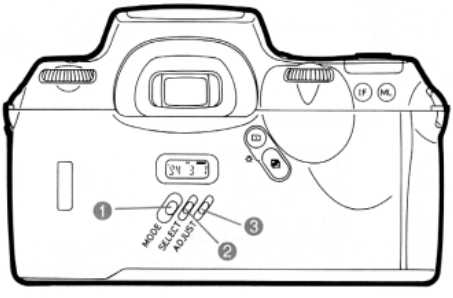
Z－5は、ピントが合ったときやセルフタイマー作動時に電子音が鳴りますが、撮影時に電子音を鳴らしたくない場合には電子音を消すことができます。

変更方法

1. モードダイヤルを 🔊 に合わせます。
2. モードセットボタンを押したままTvダイレクトダイヤルを回して表示パネルの 🔊 を消します。

＊電子音を出す場合には、同様の操作で表示パネルに 🔊 を出してください。

(10)クォーツデートのデータ修正



❶＝MODEボタン
❷＝SELECTボタン
❸＝ADJUSTボタン

データの修正方法

1. ❷のSELECTボタンを押すと数字が点滅します。押し直すと、点滅する位置が変わりますので、修正したい数字を点滅させます。
   点滅の順番：年月日の表示のとき 年→月→日→
   時分表示のとき 時→分→：→
2. ❸のADJUSTボタンを希望の数字が出るまで繰り返し押し、点滅させた数字を変更します。

＊ADJUSTボタンは、一回押すごとに数字が一つ進みます。押し続けると約2～3秒後からは早送りされます。

＊データの修正を行うときは、コインなどを利用してください。

「年月日」の修正

1. ❷のSELECTボタンを押して、年月日表示のうち修正したい数字を点滅させます。
2. ❸のADJUSTボタンを押して、データを合わせます。
3. 修正後は、❷のSELECTボタンを押して、点滅を止めます。

「日時：分」の修正

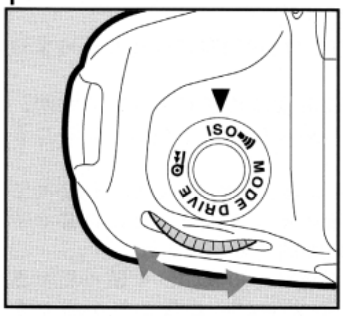
1. ❷のSELECTボタンを押し、時・分・「：」表示のうち修正したい数字[秒の場合は：]を点滅させます。
2. ❸のADJUSTボタンを押して、数字を合わせます。
3. 秒「：」を合わせるには、❸のADJUSTボタンを、時報などに合わせて押すと0秒になります。
4. 修正後は、❷のSELECTボタンを押して、点滅を止めます。

クォーツデート使用上の注意

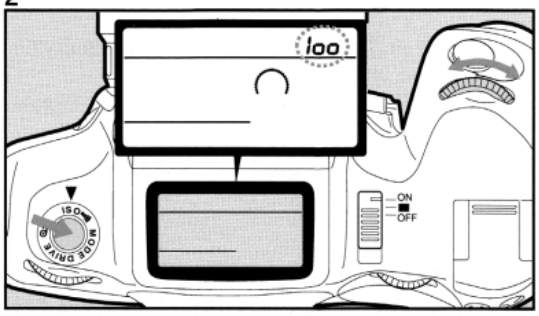
* 「年月日」と「日時：分」は同時には写し込めません。
* デートの使用可能温度は約50℃～0℃ですが、低温下では、写し込まれる文字が薄くなることがあります。
* 使用できるフィルムは、感度がISO25～1600までのものです。感度のセットはカメラにDXフィルムを入れると自動的に合わせられます。
* 高感度フィルム（ISO　1000以上）を使ったときは、写し込まれる文字がにじむことがあります。
* ISO50以下のフィルムは、フィルムにより写し込まれる文字が薄くなることがあります。
* 修正途中（点滅表示中）は、シャッターを切ってもデータは写し込まれません。
* クォーツデートは、3Vリチウム電池CR2025を使用しています。
  電池の寿命は約3年です。写真のデータが薄くなってきたり、写らなくなったときは、最寄りのペンタックスサービスセンターで新しい電池と交換してください。（有料）

(11) フィルム感度（ISO）のマニュアル設定

1



2



Z－5は、フィルムローディング時、フィルムのDXコードにより自動的にフィルム感度を読み取ることができますが、撮影者が任意に感度設定を変えることができます。
また、DXコードの付いていないフィルムを使う場合はマニュアルでISO感度を設定してください。設定をしないと、前回設定されたISO感度になってしまいます。

変更方法

1. モードダイヤルをISOに合わせます。
2. モードセットボタンを押したまま、Tvダイレクトダイヤルを回して希望のISO感度に合わせます。

* モードダイヤルをISOに合わせて、モードセットボタンを押すと、現在設定されているフィルム感度（ISO）が表示パネルに表示されます。
* DXコードで読み取ったフィルム感度とマニュアル設定したフィルム感度が異なった場合、表示パネルにISOが表示されて知らせます。

(12) 外付けストロボの使い方

カメラの内蔵ストロボでは光量が足りないときは、外付けストロボを利用してください。(結婚披露宴やパーティーなどで便利です)

ＴＴＬオートモード付きストロボを使います。

1. カメラのホットシューカバーを外し、ストロボを取り付けます。
2. ストロボのモードをＴＴＬオートにします。カメラの撮影モードはハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出(電源スイッチがグリーンポジション■の場合のみ)、絞り優先自動露出のいずれかにセットします。
3. ストロボの電源スイッチを入れます。
4. ストロボの充電完了を確認します。ストロボの充電完了ランプが点灯すると、カメラのシャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー内のϟが点灯しますので、ファインダーでも充電完了の確認ができます。
5. ピントを合わせて撮影します。

＊ 充電が完了すると、周りの明るさによってシャッター速度は、1/250秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、Ａレンズ以前のレンズ使用時は低速限界は1/60秒になります。

＊ カメラの露出モードをハイパーマニュアル露出にすると、シャッター速度や絞りを自由に選んでストロボ撮影ができますので、ピントの合う範囲を変えたり、ぶれの効果を変えたいときなどにご利用いただけます。

外付けストロボの多灯撮影

2個以上の外付けストロボを同時に使用する場合は、82ページのストロボ機能一覧表の同じタイプどうしを組み合わせるか、TYPE B と TYPE C あるいは TYPE D と TYPE E の組み合わせでお使いください。内蔵ストロボは、どのタイプとでも組み合わせ可能です。

ストロボ機能一覧

カメラの機能	TYPE A	TYPE B	TYPE C	TYPE D	TYPE E
ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度に自動的に切り替わる。	○	○	○	○	○
ハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出では絞りが自動セットされる。	○	○	○	○	
ファインダー内でオートチェックができる。		○	○		
TTLオートストロボ撮影ができる。	○	○	○	○注1	
ハイパーマニュアル露出では低速シンクロができる。	○	○	○	○	○
AFスポットビームが使える。	○	○	○		
後幕シンクロ撮影ができる。(注2)	注3	○	○		
光量比制御モードで撮影できる。(注4)		○			

TYPE A ：内蔵ストロボ
TYPE B ：AF330FTZ、AF500FTZ(注５)
TYPE C ：AF400FTZ、AF240FT
TYPE D ：AF400T、AF280T、AF200T、AF080C、AF140C、AF200SA
TYPE E ：AF200S、AF160、AF140

注１：AF200SAは不可。
注２：1/125秒以下になります。
注３：TYPE BまたはCストロボと組み合わせて可能。
注４：1/60秒以下になります。
注５：マルチストロボ、スレーブ機能が働きます。

その他のストロボを使用した場合

＊ 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス専用オートストロボの使用をお勧めします。

＊ TYPE D(AF200SAを除く)のストロボで、ＭＳ(マニュアルシンクロ)、Ｍ(マニュアル)を使うときやTYPE Eのストロボを使うときは、ストロボの計算盤で求めた絞りに合わせて撮影してください。ハイパープログラム、プログラム(電源スイッチがグリーンポジション■の場合のみ)では、絞りが変化してしまいますので使えません。

AF500FTZ、AF330FTZ

- 周りの明るさによってシャッター速度と絞りが変化しますので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。絞りとシャッター速度の変化に関しては内蔵ストロボと同様です。（71ページ参照）
- 暗くてオートフォーカスの苦手な被写体でも、ＡＦスポットビームを自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- オートズーム機構付きですから、レンズの焦点距離に対応して自動的に照射角度が変化します。（Ｆ・ＦＡレンズのみ）
- スレーブ機能（コードレス）がご利用できます。（AF500FTZのみ）
- マルチ発光モードがご利用できます。（AF500FTZのみ）
- 光量比制御モードがご利用できます。（84ページ参照）
- カメラがハイパープログラム、プログラム自動露出（電源スイッチがグリーンポジション ■ の場合のみ）絞り優先自動露出であれば、ストロボのモードがマニュアルでも自動的にＴＴＬオートになります。
- 充電完了後およそ３分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの電源が入り充電が再開されます。

AF240FT、AF400FTZ

- 周りの明るさによってシャッター速度と絞りが変化しますので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。絞りとシャッター速度の変化に関しては内蔵ストロボと同様です。（71ページ参照）
- 暗くてオートフォーカスの苦手な被写体でも、ＡＦスポットビームを自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
- カメラがハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出（電源スイッチがグリーンポジション ■ の場合のみ）、絞り優先自動露出であれば、ストロボのモードがマニュアルでも自動的にＴＴＬオートになります。
- 充電完了後およそ５分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの電源が入り充電が再開されます。

AF200T、AF280T、AF400T

- ＴＴＬオートモードで使用すると、周りの明るさによってシャッター速度が変化します（1/250秒～1/60秒）ので、日中シンクロ撮影にご利用いただけます。
- 外光オート（赤・緑・黄位置）で使用すると、絞りがＡ位置のままでも絞りは下表のように切り替わります。充電が完了すると、シャッター速度も1/250秒～1/60秒に変化します。

	AF200T	AF280T	AF400T
赤	F2.8	F 4	F 4
緑	F5.6	F 8	F 8
黄			F11

（ISO 100の場合）

ストロボ撮影（使用上）の注意

内蔵ストロボとペンタックス専用の外付けストロボを組み合わせて使用すると、充電完了した外付けストロボの機能が優先されます。撮影時は、各ストロボの充電の完了を確認してからシャッターを切ってください。

光量比制御シンクロ撮影

AF330FTZまたはAF500FTZとカメラの内蔵ストロボを組み合わせることで、二つのストロボの光量の違いを利用した増灯撮影（光量比制御シンクロ撮影）ができます。光量の比率は、内蔵ストロボが１に対して外付けストロボは２になります。

1. AF330FTZ、AF500FTZのシンクロモードを光量比制御モードにします。
2. 両方のストロボの充電完了を確認してから撮影してください。

＊ AF330FTZ、AF500FTZをカメラから離してご使用になると、光量比制御の効果が大きくなります。この場合には、別売りアクセサリーのホットシューアダプターＦ（AF330FTZでは２個）と延長コードＦ５Ｐをご利用ください。なお、ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると、誤動作の原因となるので、使用しないでください。

＊ 光量比制御シンクロ撮影では、シャッター速度の上限が1/60秒になる他は先幕シンクロと同様になります。

(13) 専用アクセサリー(別売)について

Z－5には、各種専用アクセサリーが用意されています。詳しくは、サービス窓口にお問い合わせください。

● **ケーブルスイッチF**
Z－1、Z－5、Z－10、Z－20、Z－20p、Z－50p、SFXN、SF7等に使えるレリーズコード。手ぶれ防止やバルブ撮影のときに使います。

● **マグニファイヤーFB**
ファインダー中央部を拡大して見るアクセサリー。

● **オートストロボAF500FTZ**
ガイドナンバー50のAFスポットビーム内蔵オートズームストロボ。スレーブ機能、マルチ発光、光量比制御モードや先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。

● **オートストロボAF330FTZ**
ガイドナンバー33のAFスポットビーム内蔵オートズームストロボ。光量比制御モードや先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。

● **ホットシューアダプターF、延長コードF5P**
AF240FT・AF330FTZ・AF400FTZ・AF500FTZをカメラから離してストロボ撮影するときのアダプターとコード。

● **AFアダプター1.7×**
F2.8より明るいKA・Kマウントレンズでオートフォーカス撮影するためのアダプター。

● **マクロストロボAF140C**
ガイドナンバー14の接写用ストロボ。

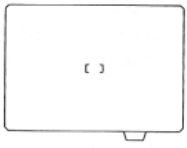
● **グリップストラップFD**
カメラのホールディングを確実にするグリップ。

● **レフコンバーターA**
ファインダーを見る角度を90度間隔に変えることができるアクセサリー。倍率は1倍と2倍の切り替え式。

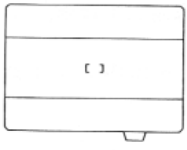
● **フィルター**
スカイライト・曇天用・UV・Y2・O2・R2・円偏光があります。フィルター径は49mm・52mm・58mm・67mm・77mmの5種類です。

●フォーカシングスクリーン

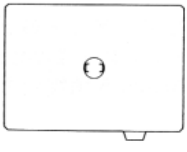
FF－50(Z－1用標準マット)
Z－1に標準装備、一般撮影用



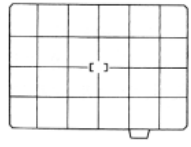
FP－50(パノラママット)
パノラマ視野枠付(別売パノラマアダプターF使用)



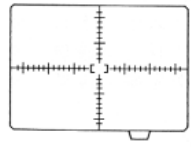
FS－50(センタースポット)
スポット測光用フレーム付
Z－5に標準装備



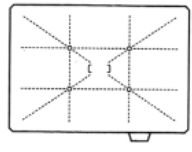
FG－50(方眼マット)
構図設定用(6mm間隔の方眼付)



FI－50(スケールマット)
フィルム面上の像サイズ設定用(1mm目盛のスケール付)



FK－50(黄金分割マット)
構図設定用(黄金分割点・フレーミングライン付)

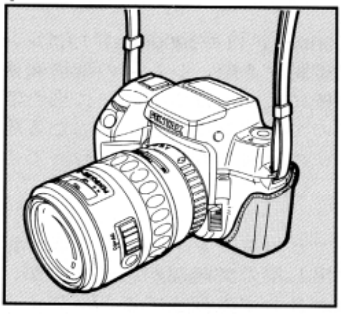


アクセサリーの注意

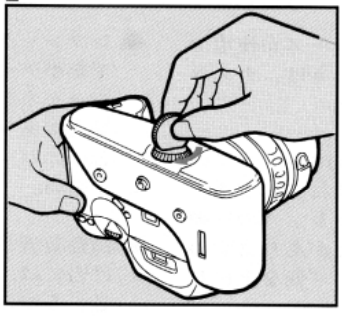
- 「オートベローズA」はダブルレリーズが使用できません。また、縦位置撮影のときは、カメラのグリップ側を上にしてください。
- 「PENTAX-F ★300mm F4.5 ED (IF)」レンズの三脚座を使用してカメラを縦位置にするとき、カメラのグリップ側を下にするとレンズの三脚取り付け座がカメラに当たることがありますので、縦位置にするときにはグリップ側を上にしてください。
- 「645レンズ用アダプターK」をボディーに着脱する際、アダプターの固定ネジの位置によってはボディーに当たる場合がありますのでご注意ください。当たる場合は、固定ネジの位置を変えてから行ってください。
- レフレックス1000mm F11や2000mm F13.5レンズをボディーに着脱する際、レンズの縦横変換ロックネジの位置によってはボディーに当たる場合がありますのでご注意ください。当たる場合は、ロックネジの位置を変えてから行ってください。
- 微動装置Ⅲ型やコピースタンドのカメラ取り付け台には、水平出し用の突起部がありますが、Z－5では形状が合わず直接当てるとボディーに傷が付くことがありますので使用しないでください。

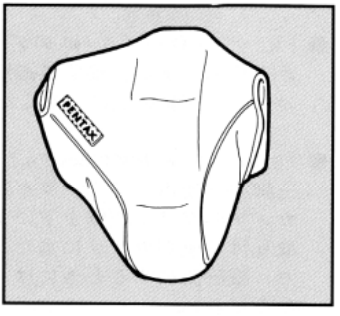
(14) ソフトケースFD

1



2





ソフトケース(別売)は、バックケース(底ぶた)とフロントケース(前ぶた)からできています。

1. フロントケースを開いて、カメラをバックケースに入れます。
2. ケース下部の取り付けネジを、コインなどを使用して締め付けて固定します。

＊ フロントケースは、Z－1用と共通のFDS、FDMあるいはFDLを使用します。
＊ バックケースFDは、ソフトケースのS、M、Lに共通です。

ソフトケースには、S、M、Lの3種類があります。

ケース	適合するF、FAレンズ
S	50mm/F1.4、F1.7、ズーム35～70mmなど
M	ズーム28～80mm、ズーム35～105mm、ズーム35～80mmなど
L	マクロ100mm、ズーム28～105mm、ズーム70～200mm、ズーム28～70mm、Fズーム80～200mmなど

(15) 絞りとシャッター速度の効果

高速シャッター

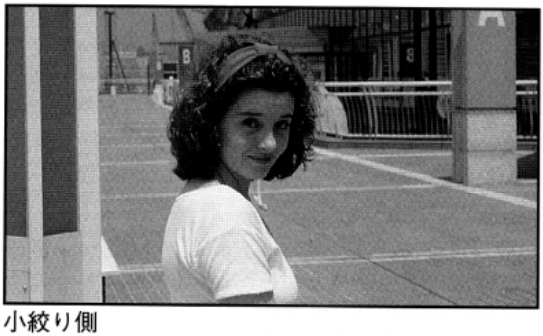
低速シャッター

写したい物(被写体)の明るさによって、適正露出を決めることは、シャッター速度と絞り値の組み合わせを決めることです。ところが、被写体が同じ明るさであってもシャッター速度と絞り値の組み合わせはいくつもあり、この組み合わせを選ぶことにより写真の効果を変えることができます。

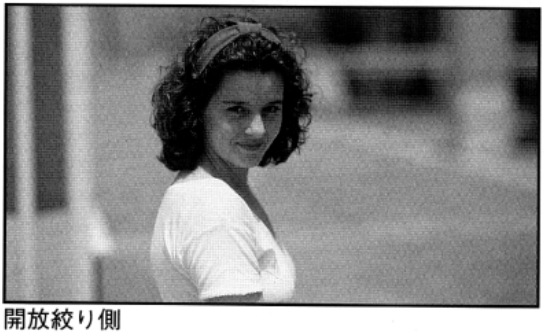
シャッター速度の効果

シャッター速度は、光がフィルムに当たっている時間を長くしたり、短くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

シャッター速度が遅ければ、シャッターの開いている時間が長いので、もし、このとき被写体が動いていれば、当然被写体がぶれてしまいます。逆にシャッター速度を速くすると、動きのある被写体でも動きを止めて写すことができます。また、被写体が動いていなくてもシャッター速度を速くすると、シャッターを切るときにカメラが動いてしまうカメラぶれを防ぐ効果もあります。また、川や滝、波などを低速シャッター速度で写すと動感のある写真になります。



小絞り側



開放絞り側

絞りの効果

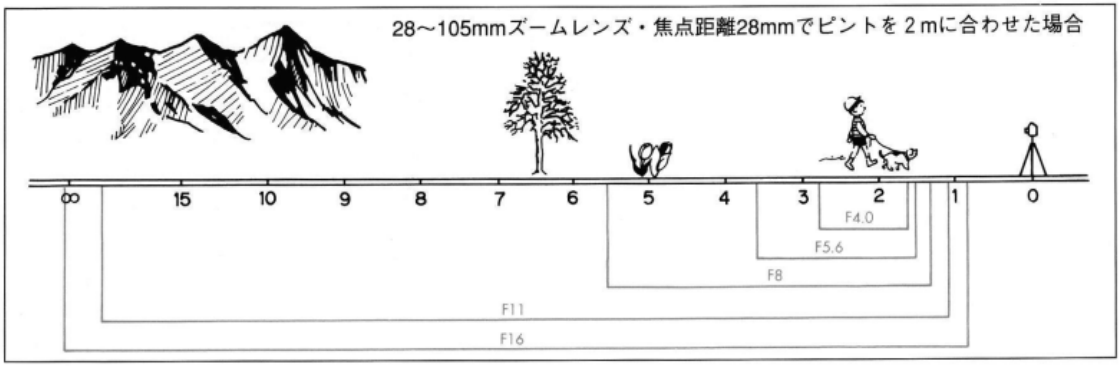
絞りは、レンズを光が通るときの光束(光の太さ)を大きくしたり、狭くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

絞りを開いて光束を広くすると、ピントを合わせた物に対してその前後の物のピントのずれが大きくなります。つまり、ピントの合う範囲(被写界深度)が狭くなります。逆に、絞りを絞って光束を狭くすると、ピントの合う範囲が広くなります。

例えば、風景の中で人物を撮影するときに、絞りを開いて撮影すると、ピントを合わせた人物の前後の風景のピントがずれるため、人物だけが浮かび上がる効果があります。

逆に、絞りを絞ると前後の風景にまでピントが合わせることができます。

(16) 被写界深度



被写体のある部分にピントを合わせると、その前後にもピントが合う範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。
被写界深度（ピントの合う範囲）は、図のように絞りを絞り込むほど深くなりますが、この他にも広角レンズほど、また、被写体が遠くなるほど被写界深度は深くなります。

ピントの合う範囲

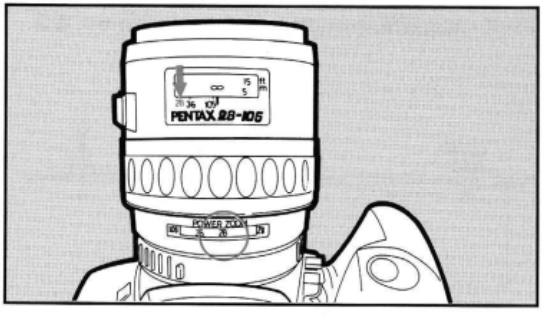
絞りを変えることによってピントの合う範囲（奥行）が変わります。

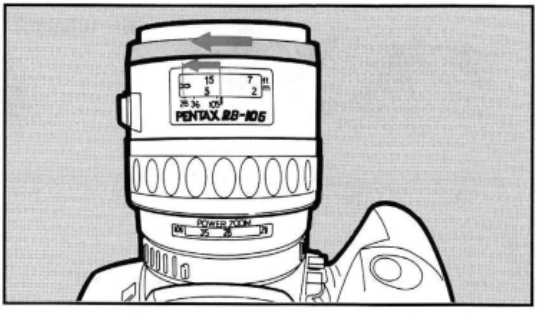
ズームレンズの被写界深度目盛りは機構上入っていません。

プレビューボタンについて

被写界深度は、絞りがA位置以外になっていればプレビューボタンを押すことでファインダー内で確認できます。プレビューボタンを押すとセットした絞り値まで絞りが絞られます。なお、プレビューボタンを押したまま露出を合わせると、正しい露出が得られませんのでご注意ください。

(17) 赤外線指標について





赤外線フィルムと「Ｒ２」や「Ｏ２」フィルターを使用して赤外線写真を撮影するときは、一般撮影（可視光線）とピント位置が異なってくるため、ピントの補正が必要になります。オートフォーカスでは赤外線写真のピント補正ができません。

補正方法

一度普通にピント合わせをしてから、フォーカスモードレバーを[MANUAL]にし、距離リングを赤外線指標の分だけ左に回して補正します。
図のように、焦点距離目盛りが28のときは、距離目盛りを28の赤外線指標（赤線）までずらします。

＊ 赤外線写真を撮影するときの露出は、フィルムの説明書を参考にしてください。自動露出では適正露出が得られませんから、マニュアル露出で撮影します。

Ⅳ その他について

＊ カメラ用の電池はリチウムの 2CR5 、データバック用にはリチウムのコイン型電池 CR2025 を使用します。
＊ 電池は正しく使いましょう。誤った使い方は液もれ・発熱・破損の原因となります。電池の＋－を間違えないようご注意ください。
＊ 電池は幼児の手の届かない所に保管してください。万一電池を飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。治療方法についてのお問い合わせ先。
筑波中毒110番：0298（52）9999　24時間体制
大阪中毒110番：06（451）9999　24時間体制
＊ 電池をショートさせたり、分解や充電をしたり、火の中に入れると破裂・発火の恐れがありますので絶対にしないでください。
＊ 海外旅行や寒冷地での撮影や写真をたくさん撮る予定のあるときなどは、予備電池を用意しておくと安心です。
＊ 低温では、一時的に電池の性能が低下して容量（能力）不足になることがありますので、できるだけ新品の電池を使うか、もう一つの電池を用意して交互に保温しながらお使いください。
＊ カメラバックなどに入れるとき、シャッターボタンが押されると電池が消耗します。電源スイッチを切っておくと安全です。
＊ 内蔵ストロボを連続して使うと、カメラ用の電池が多少温かくなる場合がありますが、これは電池の特性で異常ではありません。

撮影可能フィルム本数およびバルブ時間

一般撮影	約80本
ストロボ撮影（使用率50%）	約25本
ストロボ撮影（使用率100%）	約14本
バルブ露出時間	約6時間

新品のリチウム電池 2CR5 で、当社試験条件による。（24枚撮りフィルム、常温）
＊ 撮影可能フィルム本数は、使用条件によって変わりますのでご注意ください。

2）取り扱い上の注意

カメラは精密機械です。取り扱いには充分ご注意ください。

保管上の注意
＊ 高温多湿の所へ保管したり、長時間放置することは避けてください。特に車の中は高温になることがありますのでご注意ください。
＊ カメラは、防虫剤入りのタンスや薬品を扱う実験室を避けてください。また、カビ防止のためケースから出して風通しの良い所に保管してください。

お手入れ上の注意
＊ レンズやファインダー窓のホコリはブロワーで吹き飛ばし、きれいなレンズブラシで取り去ってください。
＊ 汚れ落としに、シンナーやアルコール・ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
＊ ゴミや泥・砂・ホコリ・水・有害ガス・塩分などがカメラの中に入ると、故障の原因になりますからご注意ください。保証期間中でも有料修理になる場合があります。雨や水滴などが付いたときは、良く拭いて乾かしてください。
＊ シャッター幕やミラーには、手を触れないでください。
＊ カメラ内部には、高電圧部があります。危険ですから決して分解しないでください。
＊ 一般に、電気系のトラブルは接点部の汚れやゴミが原因になる場合が多いものです。もし、電気系の不具合と思われる現象が出たときは、電池の接点や各部の接点に手油などの汚れ、塩分や特殊ガスなどによる腐食、あるいはゴミなどが付いていないかチェックしてみてください。

撮影時の注意
＊ 落としたり、固いものにぶつけないようにしてください。もしも強いショックや圧力を与えた場合は点検を受けてください。
＊ 寒い外から急に暖かい部屋へ持ち込むと（または逆の場合も）、カメラの内外に水滴を生じます。このような環境では、カメラをバッグやビニール袋に入れて、できるだけ温度変化をゆるやかにし、温度差が少なくなってから、取り出してください。

* サービスサイズのカラープリントでは画面周辺でフィルムに写っていたものが切られてしまうことがあります。構図を決めるときに少し余裕を取っておくと安心です。
* マクロレンズや望遠レンズを使用したときは、ファインダーの上部がミラー切れによって暗くなることがありますが、撮影した写真には影響ありません。

その他の注意事項

* カメラの使用温度範囲は50℃～－10℃です。
* 水没品は修理不可能の場合が多くなります。当社のサービス窓口にご相談ください。
* 高性能を保つため、１～２年ごとに定期点検をお勧めします。長期間使用しなかったときや、大切な撮影の前には、点検や試し撮りをされるようにしてください。

ＬＣＤ(液晶)用バックアップ回路について

撮影途中のフィルムがカメラに入っているとき、電池交換のために電池を抜いても、撮影枚数とフィルム感度はカメラに記憶されています。

ＬＣＤ(液晶)表示について

* 約60℃の高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
* 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなったり、消えることがありますが、これは液晶の性質によるもので、常温に戻れば正常になります。

3)こんなときは？

修理を依頼される前にもう一度、次の点をお調べください

症　状	原　因	処　置	参照ページ
シャッターが切れない	電源スイッチが入っていない。	電源スイッチを入れてください。	15ページ
	バッテリー警告[▭]が出ている。	電池を交換してください。	10ページ
	電池が逆に入っている。	電池を正しく入れてください。	10ページ
表示パネルに表示が出ない。	電源スイッチが入っていない。	電源スイッチを入れてください。	15ページ
	電池が入っていない。	電池を入れてください。	10ページ
	電池が逆に入っている。	電池を正しく入れてください。	10ページ
	電池が完全に消耗している。	電池を交換してください。	10ページ
ピントが合わない。	ピントを合わせたい物（被写体）にＡＦフレーム[〔　〕]が合っていない。	被写体をＡＦフレーム[〔　〕]に入れて撮影してください。	30ページ
	被写体に近づきすぎている。	被写体から離れてください。	30ページ
	フォーカスモードレバーが[MANUAL]になっている。	フォーカスモードレバーを[SINGLE]か[SERVO]にしてください。	29ページ
	オートフォーカスの苦手な被写体。	フォーカスロックを使うか、マット部分でのピント合わせをしてください。	32ページ 38ページ
ファインダー内の[◯]が点滅する。	撮影する距離が近すぎたり、オートフォーカスの苦手な被写体などのためピント合わせができない。	フォーカスロックを使うか、マット部分でのピント合わせをご利用ください。	32ページ 38ページ
内蔵ストロボが充電しない。	電池が消耗している。	電池を交換してください。	10ページ
	フォーカスモードレバーが[SERVO]でシャッターボタンを押している。	シャッターボタンから指を離してください。	72ページ
フォーカスロックができない。	フォーカスモードレバーが[SERVO]になっている。	フォーカスモードレバーを[SINGLE]にする。	29ページ

症　状	原　因	処　置	参照ページ
多重露出撮影ができない。	電源スイッチがグリーンポジション[■]になっている。	電源スイッチを [ON] にする。	15ページ
オートブラケッティングができない。	電源スイッチがグリーンポジション[■]になっている。	電源スイッチを [ON] にする。	15ページ
ハイパープログラム自動露出にならない	電源スイッチがグリーンポジション[■]になっている。	電源スイッチを [ON] にする。	15ページ
ハイパーマニュアルにならない。	電源スイッチがグリーンポジション[■]になっている。	電源スイッチを [ON] にする。	15ページ
露出補正がセットできない。	電源スイッチがグリーンポジション[■]になっている。	電源スイッチを [ON] にする。	15ページ
ズームクリップモードにセットできない。	レンズがマニュアルズームになっている。	レンズのズームリングを前側に出して [POWER ZOOM] にする。	65ページ
	レンズのオートズームスイッチが [P] になっている。	レンズのオートズームスイッチを [A] にする。	65ページ
パワーズームが動かない。	レンズがマニュアルズームになっている。	レンズのズームリングを前側に出して [POWER ZOOM] にする。	26ページ
露光間ズームにセットできない。	レンズがマニュアルズームになっている。	レンズのズームリングを前側に出して [POWER ZOOM] にする。	65ページ
露光間ズームが作動しない。	焦点距離が最もテレ側(数字の大きい方)になっている。	焦点距離をワイド側(数字の小さい方)にする。	69ページ

静電気などの影響により、希にカメラが正しい作動をしなくなることがあります。このような場合には、一旦電池を入れ直してください。また、ミラーが上がったままになった場合は、電池を入れ直してから電源スイッチをＯＮにし、シャッターボタンを押し込んだまま電源スイッチをＯＦＦにすると、ミラーが下がります。これらを行ない、カメラが正常に作動すれば故障ではありませんので、そのままお使いいただけます。

4)主な仕様

- 型式 ―― ＴＴＬストロボ内蔵 ＴＴＬ ＡＥ・ＡＦ35mm一眼レフカメラ
- 画面サイズ ―― 24×36mm
- 使用フィルム ―― 35mmフィルム(Ｊ135パトローネ入り)35mmＤＸフィルム＝ISO25～5000　ＤＸでないフィルムはISO６～6400
- 露出モード ―― ハイパープログラム自動露出、プログラム自動露出、絞り優先自動露出、ハイパーマニュアル露出、バルブ
- シャッター ―― 電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター　オートシャッター＝1/8000秒～30秒(無段階)、マニュアルシャッター＝1/8000秒～30秒、バルブ、電磁レリーズ、電源スイッチ切りでシャッターロック
- レンズマウント ―― ペンタックスバヨネットKAF2マウント(AFカプラー、レンズ情報接点、パワーズーム用電源ピン付きKマウント)
- 使用レンズ ―― KAF2、KAFマウントレンズ　KA、Kマウントレンズ(ＡＦアダプター使用でＡＦ可能)
- オートフォーカス機構 ―― ＴＴＬ位相差検出式、オートフォーカス作動輝度範囲Ｅｖ－１～18(ISO100)(Ｆ1.4レンズ付き)、フォーカスロック可能、フォーカスモード＝[SINGLE]、[SERVO](動体予測可)、[MANUAL]、ＡＦスポットビーム有
- パワーズーム ―― ＦＡズームレンズとの組み合わせにより、３速パワーズーム・ズームクリップ・露光間ズームが使用可能
- ファインダー ―― ペンタプリズムファインダー、交換式アスフェリックマイクロマットフォーカシングスクリーン、視野率92%、倍率0.8倍(50mm・∞)、視度調節式-2.5～＋1.5Ｄ
- ファインダー内表示 ―― フォーカス表示(ＦＩ＝フォーカスインジケーション)[○]点灯＝合焦表示、[○]点滅＝合焦不能表示、シャッター速度＝8000～30"表示、絞り＝1.2～90表示、[ϟ]点灯＝外付けストロボ充電完了表示、[ϟ]点灯＝内蔵ストロボ充電完了表示 [ϟ]点滅＝ストロボお勧めまたは不適切レンズ警告表示、[⊜]＝ハイパーマニュアル時の露出表示、[▮]＝露出補正表示、[✱]＝メモリーロック表示、[•]＝スポット測光表示
- ＬＣＤパネル表示 ―― [HyP]＝ハイパープログラム自動露出表示、[P]＝プログラム自動露出表示、[A]＝絞り優先自動露出表示、[HyM]＝ハイパーマニュアル露出表示、[bu]＝バルブ表示、[]＝ズームクリップ表示、[]＝露光間ズーム表示、シャッター速度＝8000～30ｓ表示、絞りＦ値＝1.2～90、フィルム感度＝６～6400、ISO表示、バルブ露出時間＝１秒～59秒(１Ｓ～59Ｓ)・１分～59分(１ｍ～59ｍ)・１時間～24時間(１ｈ～24ｈ)、ブラケッティング・露出補正の補正値＝－４～＋４、多重露出回数＝２～９、バーグラフ＝露出補正値　オートブラケッティング補正値、[]＝パトローネ・フィルム走行マーク、[]＝電池消耗表示、フィルムカウンター＝０～99、[ϟ]＝内蔵ストロボ充電完了表示、[ϟ]点滅＝ストロボお勧め表示、不適切レンズ警告表示、[]＝スポット測光表示、[]＝ブザー表示、[]＝１コマ撮影表示、[]＝連続撮影表示、[]＝セルフタイマー表示、[]＝オートブラケッティング表示、[]＝多重露出表示、[]＝Ｔｖダイレクトダイヤル表示、[]＝Ａｖダイレクトダイヤル表示、[Tv]＝Ｔｖ表示、[Av]＝Ａｖ表示、ＬＣＤ照明あり(約10秒間照明)
- セルフタイマー ―― 電子制御式、始動はシャッターボタン、作動時間12秒(赤ランプ点滅、音、減算表示)、作動後解除可能
- ミラー ―― クイックリターンミラー、オートフォーカス用第２ミラー付

プレビュー	絞りA位置以外で可能
フィルム入れ	オートローディング、裏ぶた閉じにより1枚目まで自動巻き上げ、裏ぶたにフィルム情報窓付
巻き上げ・巻き戻し	内蔵モーターによる自動巻き上げ・巻き戻し式、1コマ撮影・連続撮影(約3コマ/秒)、フィルム終了時自動巻き戻し、フィルム走行・巻き戻し完了をLCD表示、巻き戻し時間は24枚撮りで約10秒。途中巻き戻し可。
露出計・測光範囲	TTL開放8分割測光、測光範囲 50mm F1.4 ISO100 EV 0～20、スポット測光可
露出補正	±4EV(0.5EVごと設定可能) －3～＋3EV・0.5EVステップバーグラフ表示有
オートブラケッティング	適正・アンダー・オーバーの3コマ連続段階露出が可能(±0.5EV～±4EVの範囲) 露出補正併用可
メモリーロック	ボタン式(タイマー式10秒) シャッターボタン半押しで継続
ストロボ	並列制御TTLストロボ内蔵、ガイドナンバー14(ISO100/m)35mmレンズをカバー、同調速度1/250秒以下、日中シンクロ、低速シンクロ、光量比制御可能 ISO連動範囲＝25～400
シンクロ	ホットシュー(X接点専用ストロボ接点付き)専用ストロボ連動 ISO連動範囲＝25～800
電源	6Vリチウムバック電池 2CR5 1個
電池消耗警告	バッテリーマーク 点灯(点滅時シャッターロック、ファインダー内表示は消灯)
裏ぶた	交換可能
大きさ・質量［重さ］	152.0mm(幅)×95.5mm(高)×74.0mm(厚) 650g(ボディーのみ 電池別)
付属品	ホットシューカバーFD、レリーズソケットキャップFD、カメラストラップFD、アイカップFD、ファインダーキャップ

クォーツデート仕様	
デート機構	クォーツ制御、液晶表示式、デジタル時計、オートカレンダー(西暦2019年まで、閏年は自動修正)
データの写し込み方法	7セグメント6桁LCD、フィルム背面より写し込み
データ表示	データ表示窓にLCD表示、表示写し込み時 が2～3秒間点滅
データの種類	①年・月・日、②日・時・分、③ --- --- (データ写し込み無し)、④月・日・年、⑤日・月・年　年＝87～19(1987～2019年)、月＝1～12、日＝1～31、時＝0～23、分＝00～59
使用可能フィルム感度	ISO25～1600(感度自動セット)
デート電源	CR2025(リチウム電池)
発光回数	約5000回

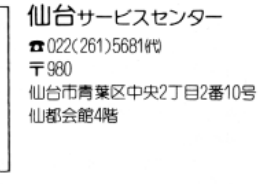
お問い合わせは次の各サービス窓口へ

■営業時間：
- ●ペンタックスフォーラム(新宿)　午前10時30分～午後6時30分(原則として年末年始を除き年中無休)
- ●ペンタックスフォーラム・大阪　午前10時～午後6時(日・祝日休業)
- ●各サービスセンター ペンタックスファミリー　午前9時～午後5時(土・日・祝日休業)

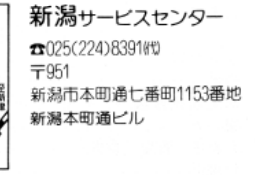
ペンタックスフォーラム
(ショールーム・写真展・修理受付)
☎03(3348)2941㈹
〒163-04
東京都新宿区西新宿2丁目1番1号
新宿三井ビル1階(私書箱240号)

東京サービスセンター
☎03(3571)5621㈹
〒104
東京都中央区銀座西8丁目10番地
(土橋交差点交番並び)

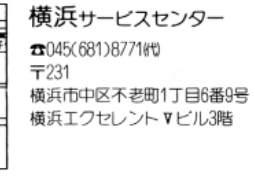
札幌サービスセンター
☎011(612)3231㈹
〒060
札幌市中央区
北10条西18丁目36番地
ペンタックス札幌ビル



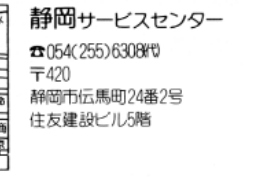
仙台サービスセンター
☎022(261)5681㈹
〒980
仙台市青葉区中央2丁目2番10号
仙都会館4階



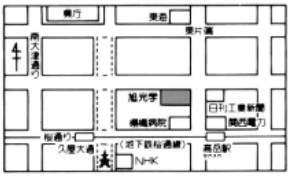
新潟サービスセンター
☎025(224)8391㈹
〒951
新潟市本町通七番町1153番地
新潟本町通ビル



横浜サービスセンター
☎045(681)8771㈹
〒231
横浜市中区不老町1丁目6番9号
横浜エクセレントVビル3階

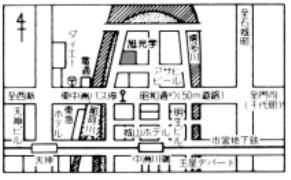


静岡サービスセンター
☎054(255)6308㈹
〒420
静岡市伝馬町24番2号
住友建設ビル5階



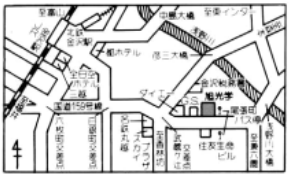
名古屋サービスセンター

☎052(962)5331(代)
〒461
名古屋市東区泉1丁目19番8号



福岡サービスセンター

☎092(281)6868(代)
〒810
福岡市博多区中洲中島町3番8号

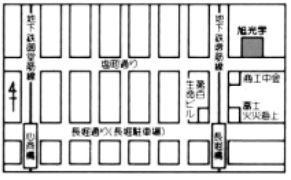


金沢サービスセンター

☎0762(22)0501(代)
〒920
金沢市尾張町2丁目8番23号
太陽生命ビル6階

お客様相談室

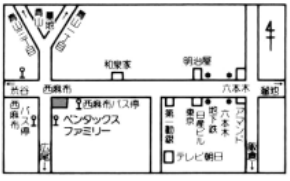
☎03(3572)6479
〒104
東京都中央区銀座西8丁目10番地
(土橋交差点交番並び)



大阪サービスセンター

☎06(271)7996(代)　**(修理受付)**
〒542
大阪市中央区南船場1丁目17番9号

ペンタックスフォーラム・大阪
(ショールーム・写真展)
☎06(271)3960

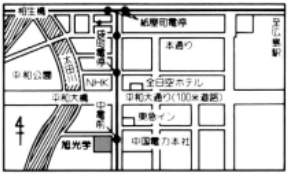


ペンタックスファミリー(写真クラブ)

☎03(3401)2187
〒106
東京都港区西麻布3丁目24番20号
交通安全教育センター3階

ペンタックスファミリーのご案内

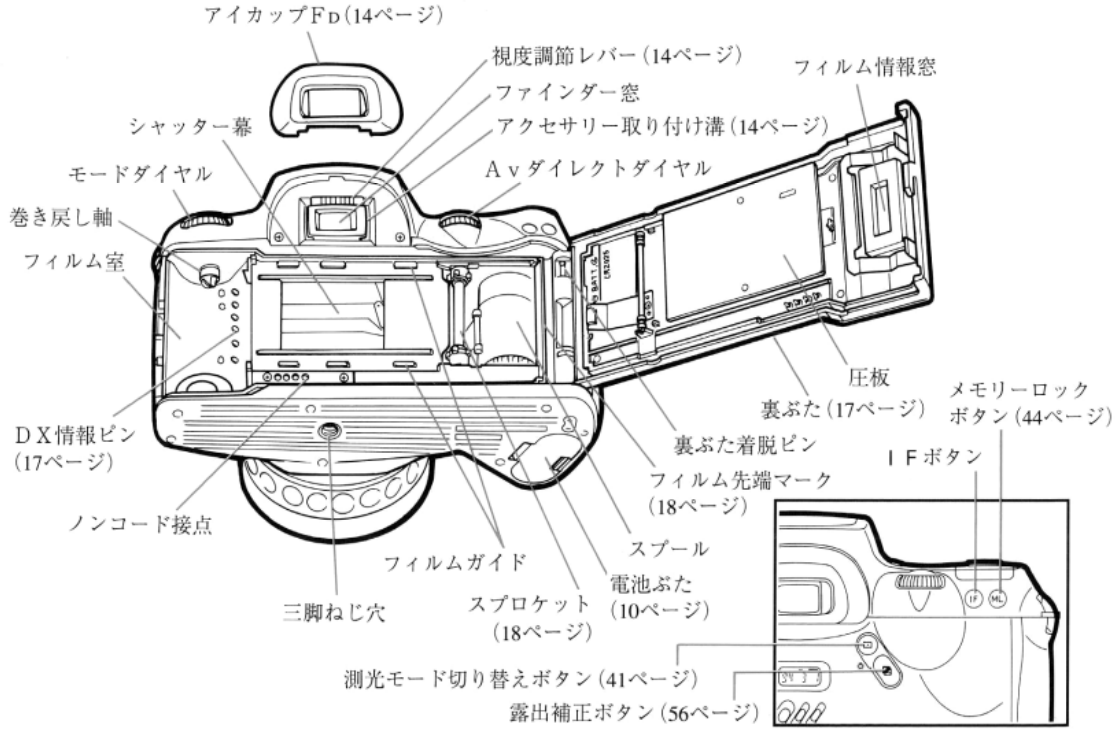
ペンタックスファミリーは、ペンタックス愛用者の写真クラブです。年4回の会報と写真年鑑の配布、イベントへの参加や修理料金の会員割引など様々な特典があります。
お申し込み・お問い合わせは上記ペンタックスファミリー事務局まで。



広島サービスセンター

☎082(248)4321(代)
〒730
広島市中区大手町3丁目7番2号
大東京火災広島ビル8階

各部の名称②



● 旭光学のサービス窓口では、ペンタックスカメラをはじめ、各種交換レンズやアクセサリーが展示され、手にとってご覧になれます。また、種々のご相談にも応じておりますので、お気軽にお立ち寄りください。
● 他社製品(レンズ、アクセサリー等)との組み合わせ使用に起因する故障については有料となります。

1. 修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。郵送の場合は、カメラの化粧箱などを利用して、輸送中の衝撃に耐えるようしっかり包装し、書留小包便でお送りください。なお、不良見本のフィルムやプリント、また、故障内容は正確にメモして添付していただけると原因分析に役立ちます。
2. 保証期間中(ご購入後1年間)は保証書(販売店印、および購入年月日が記入されているもの)をご提示ください。保証書がないと、保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用は、お客様にご負担願います。
3. 保証期間以後の修理は原則として有料です。なお運賃諸掛りはお客様にご負担願います。
4. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後、10年間を目安に保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間以後であっても、修理可能の場合もありますから、当社の各サービス窓口にお問い合わせください。
5. 外国旅行をされる場合、各サービス窓口ではお手持ちの保証書と交換に、国際保証書を発行いたします。(保証期間中のみ有効)なお、特定の旅行先でのサービス窓口の住所については、お問い合わせください。

旭光学工業株式会社
〒174 東京都板橋区前野町2丁目36番9号
ペンタックス販売株式会社
〒100 東京都千代田区永田町1丁目11番1号

☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。 02-9501